

# 2022年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2021年11月5日

自然と、あなたと、ともに未来へ。



クアンチ風力(144.0 MW、ベトナムクアンチ省内)

## 注意事項

---

本資料は、株式会社レノバ(以下「弊社」といいます。)及び弊社グループの企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、弊社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、弊社はその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではなく、また、弊社はその内容を更新する義務を負うものでもありません。

また、本資料に記載される弊社グループの計画、見通し、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における弊社の判断又は考えにすぎず、実際の弊社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外のエネルギー政策、法令、制度、市場等の動向、弊社グループの事業に必要な許認可の状況、土地や発電設備等の取得・開発の成否、天候、気候、自然環境等の変動等により、本資料記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

本資料の記載金額は、原則、連結数値を使用、百万円未満は四捨五入としているため、各欄の合計値と合致しない場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先  
株式会社レノバ IR室  
電話 : 03-3516-6263  
メール: [ir@renovainc.com](mailto:ir@renovainc.com)  
IRサイト: <https://www.renovainc.com/ir>

## 2022年3月期第2四半期連結決算(IFRS)及び直近のハイライト

1

2021年8月、唐津バイオマス(49.9 MW<sup>\*1</sup>)は  
融資関連契約を締結、着工

2

2021年8月、キアンガン水力(17.4 MW<sup>\*2</sup>)は  
融資関連契約を締結、着工

3

2021年10月、クアンチ風力(144.0 MW<sup>\*2</sup>)  
及び軽米尊坊ソーラー(40.8 MW)が運転開始

4


2021年9月、いすみ市沖が  
洋上風力事業に係る「有望な区域<sup>\*3</sup>」に選定

\*1 地熱及びバイオマス発電は発電端出力ベースの設備容量表記

\*2 許認可ベースでの設備容量

\*3 海洋再生可能エネルギー発電設備整備促進区域指定ガイドラインに記載されている有望な区域の選定条件に合致していると認められる区域





I. 2022年3月期第2四半期決算及び主な事業進捗

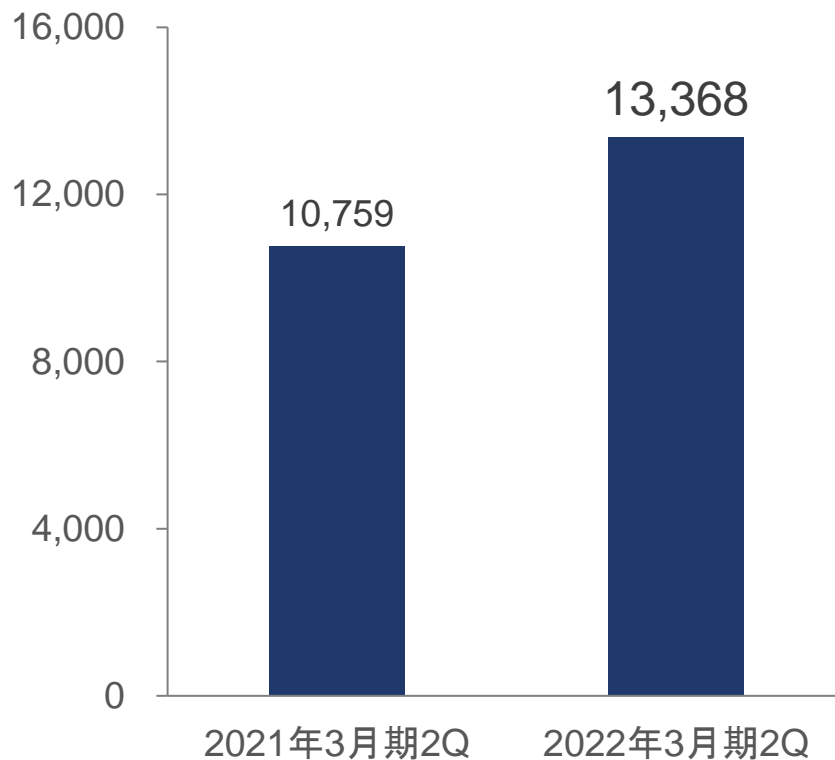
苅田バイオマス(75.0 MW、福岡県京都郡苅田町)

## 連結売上収益及び連結EBITDA<sup>\*1</sup>の推移(IFRS)

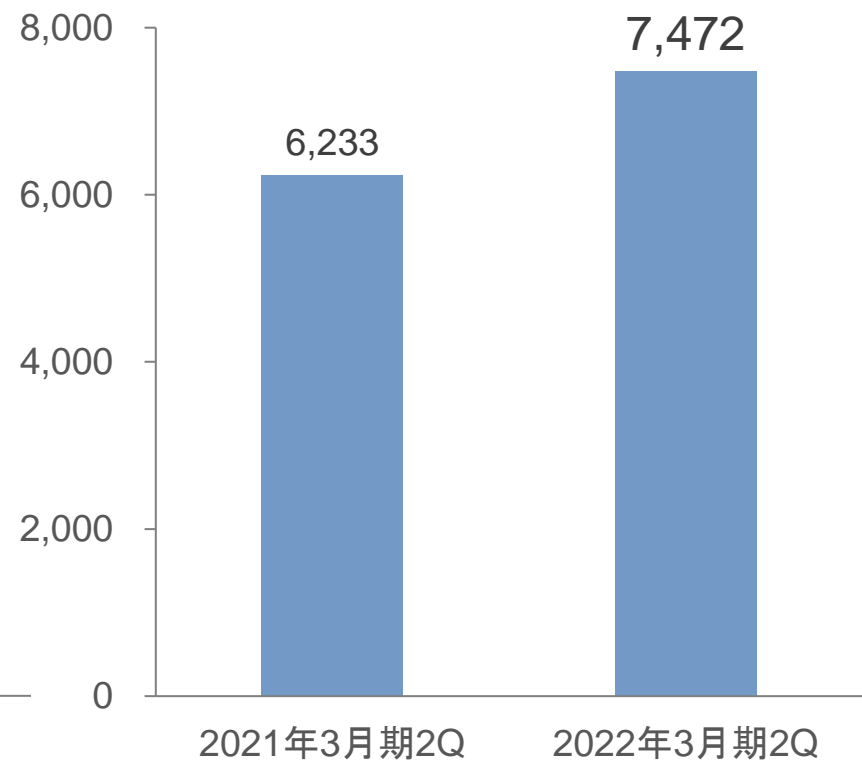
(単位: 百万円)

- 売上収益及びEBITDAは、苅田バイオマスの連結化に伴い前年同期から増収増益、計画通りの進捗

### 連結売上収益(実績)



### 連結EBITDA<sup>\*1</sup>(実績)



<sup>\*1</sup> EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

## 連結業績ハイライト(IFRS)

(単位: 百万円)

- 親会社の所有者に帰属する四半期利益は、売上収益及びEBITDAの成長に加え、企業結合に伴う再測定による利益の計上等の影響に伴い、前年同期比で増益

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2022年3月期 (通期計画)	通期進捗率
売上収益	10,759	13,368	30,000	44.6%
EBITDA*1	6,233	7,472	12,600	59.3%
EBITDA マージン	57.9%	55.9%	42.0%	-
営業利益	3,233	4,016	4,700	85.4%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	1,302	7,237	5,100	141.9%
EPS(円)*2	17.01	92.90	65.31	-
LTM ROE*3	-	83.2%	36.2%	-
運転中発電所数 (括弧は持分法適用の数)	12(0)	13 (0)	14 (1)	-
設備容量(MW)*4	333.3	408.3	593.1	-

\*1 EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

\*2 EPSは潜在株式調整を考慮しない数値 \*3 ROE における親会社の所有者に帰属する持分は、直近12ヶ月間の期首・期末の単純平均値を使用

\*4 設備容量は当社持分比率を考慮しないグロス値で表示



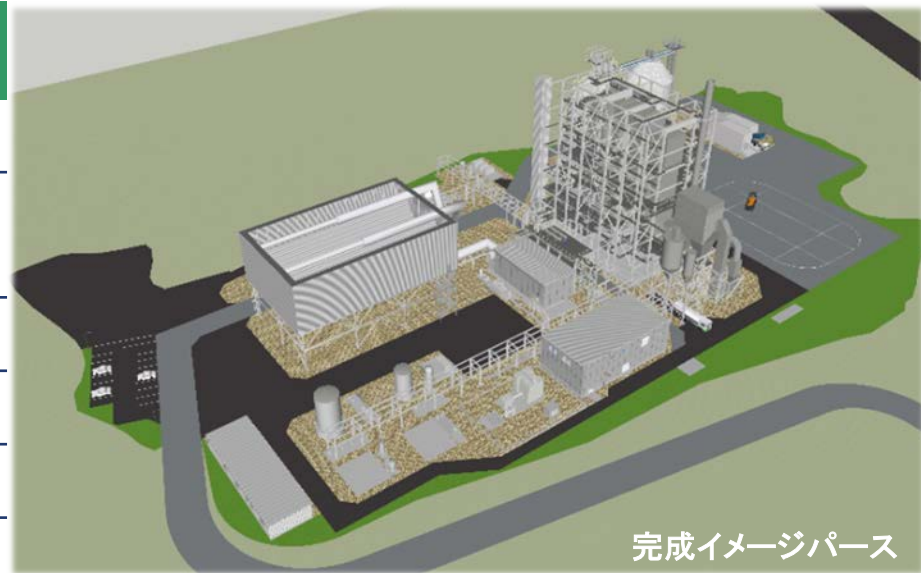
# 唐津バイオマス(49.9 MW、佐賀県唐津市)<sup>\*1</sup>の概要

2021年11月現在

- これまで培ってきたバイオマスの開発に関する知見を元に、レノバが開発を主導
- 2021年8月に、最終投資意思決定を行い、建設開始

## 唐津バイオマス(佐賀県唐津市)

設備容量 <sup>*2</sup>	49.9 MW
主燃料	輸入木質ペレット (PKS併用)
FIT 単価	24円 / kWh
運転開始	2024年12月 (予定)
想定売上高 <sup>*3</sup>	約80億円 / 年
総事業費 <sup>*4</sup>	約380億円
LTC	90.0%
出資会社	レノバ:35.0% <sup>*5</sup> 東邦ガス:34.0% JA三井リース:16.0% イノセント:15.0%



7件目となる大型バイオマス事業。  
これまでの経験と知見を活かし、開発を主導

<sup>\*1</sup> EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記 <sup>\*2</sup> バイオマス発電は発電端出力ベースの設備容量表記 <sup>\*3</sup> 現状の計画であり、変動する可能性がある

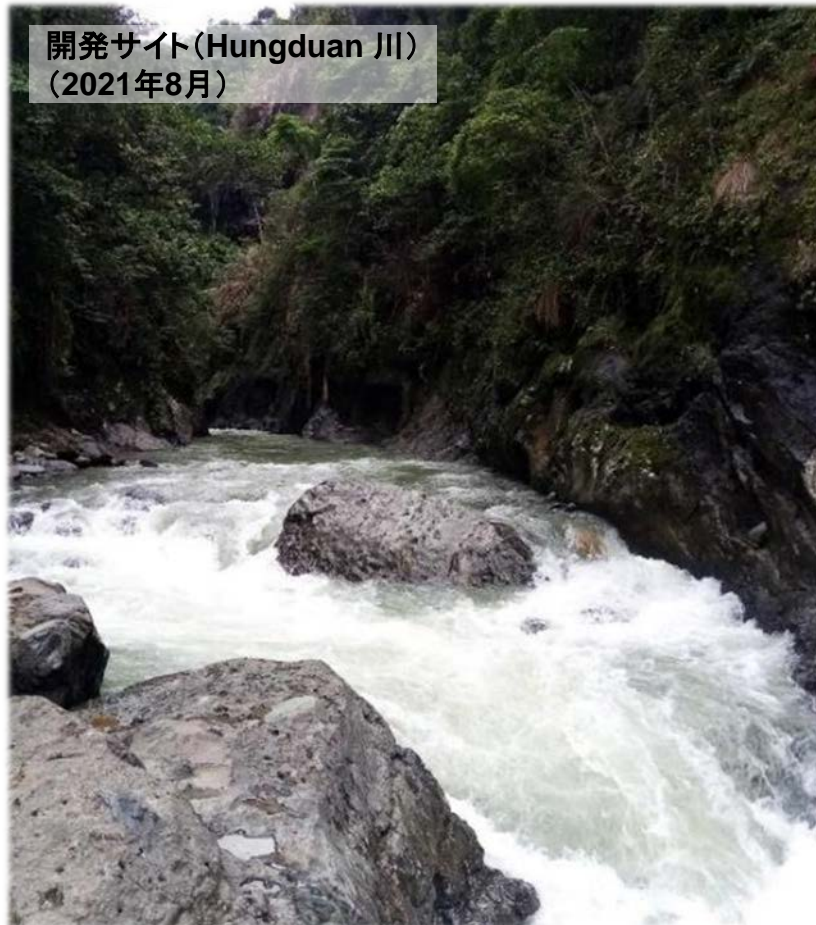
<sup>\*4</sup> 発電関連設備、建屋、土地、土木造成、ファイナンス関連費用(リザーブ等含む)、開業関連費用など、運転開始までにかかる全ての支出を含んだ金額

<sup>\*5</sup> 発電所の完成日以降に、一部の出資会社が保有する特別目的会社出資持分(出資比率: 16.0%)を買い増す権利を有す。当該権利を行使した場合は、弊社の出資比率は 51.0%

# キアンガン水力(17.4 MW、フィリピン)<sup>\*1</sup>の概要

2021年11月現在

- レノバが開発に参画した初の水力発電事業であり、海外事業としては、2事業目
- 2021年8月、最終投資意思決定を行い建設開始



開発サイト(Hungduan 川)  
(2021年8月)

## 事業概要

設備容量	17.4 MW (許認可ベース)
FIT価格 <sup>*2 3 4</sup>	5.87 PHP/kWh (約¥11.7 /kWh)
出資会社	レノバ: 40.0% Alternergy Renewables Corporation: 30.0% Santa Clara International Corporation: 30.0%

**初の水力発電事業であり、  
海外事業としては、2事業目。  
土木工事はすでに順調に進捗**

<sup>\*1</sup> EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

<sup>\*2</sup> 小水力発電に関する FIT 対象枠の残存期間中に運転開始した場合の想定 FIT 単価

<sup>\*3</sup> フィリピンペソ=2円で換算した参考値 <sup>\*4</sup> 現状の計画であり、変動する可能性がある



# クアンチ風力(ベトナム、144.0 MW)の運転開始

2021年11月現在

- 2020年5月に、レノバが参画した初の海外事業
- 2021年10月末までに各事業区画が順次運転開始

## 事業概要

設備容量	144.0 MW
FIT単価 <sup>*1*2*3</sup>	8.5 cents (US\$) / kWh (約9.3 円)
想定 売上収益 <sup>*3</sup>	約45 MM (US\$) / 年 (約50億円 / 年)
出資比率	PCC1 <sup>*4</sup> 他: 60.0% レノバ: 40.0%



発電サイトの眺望①  
(2021年9月)



発電サイトの眺望②  
(2021年10月)

**2021年10月に運転開始**

\*1 ベトナムのFITスキームに則り売電

\*2 \$1=110円で換算した参考値 \*3 現状の計画であり、変動する可能性がある

\*4 Power Construction Joint Stock Company No.1

# 軽米尊坊ソーラー(岩手県九戸郡軽米町、40.8 MW)の運転開始

## 2021年11月現在

- 2021年10月、運転開始。今期は6ヶ月の連結業績寄与
- 運転開始後、コールオプションを行使し出資持分を追加取得。出資持分は55.0%

発電サイトの眺望  
(2021年10月)



### 事業概要

設備容量*1	40.8 MW
FIT単価	36円 / kWh
想定売上収益*2	約17億円 / 年
想定EBITDA マージン*2	約80%
総事業費*3	約170億円
LTC	90.0%
出資比率	レノバ: 55.0% 第一生命保険: 45.0%

## 2021年10月に運転開始

\*1 モジュールベースの設備容量表記

\*3 現状の計画であり、変動する可能性がある

\*2 発電関連設備、土地、土木造成、ファイナンス関連費用(リザーブ等含む)、開業関連費用など、運転開始までにかかる全ての支出を含んだ金額





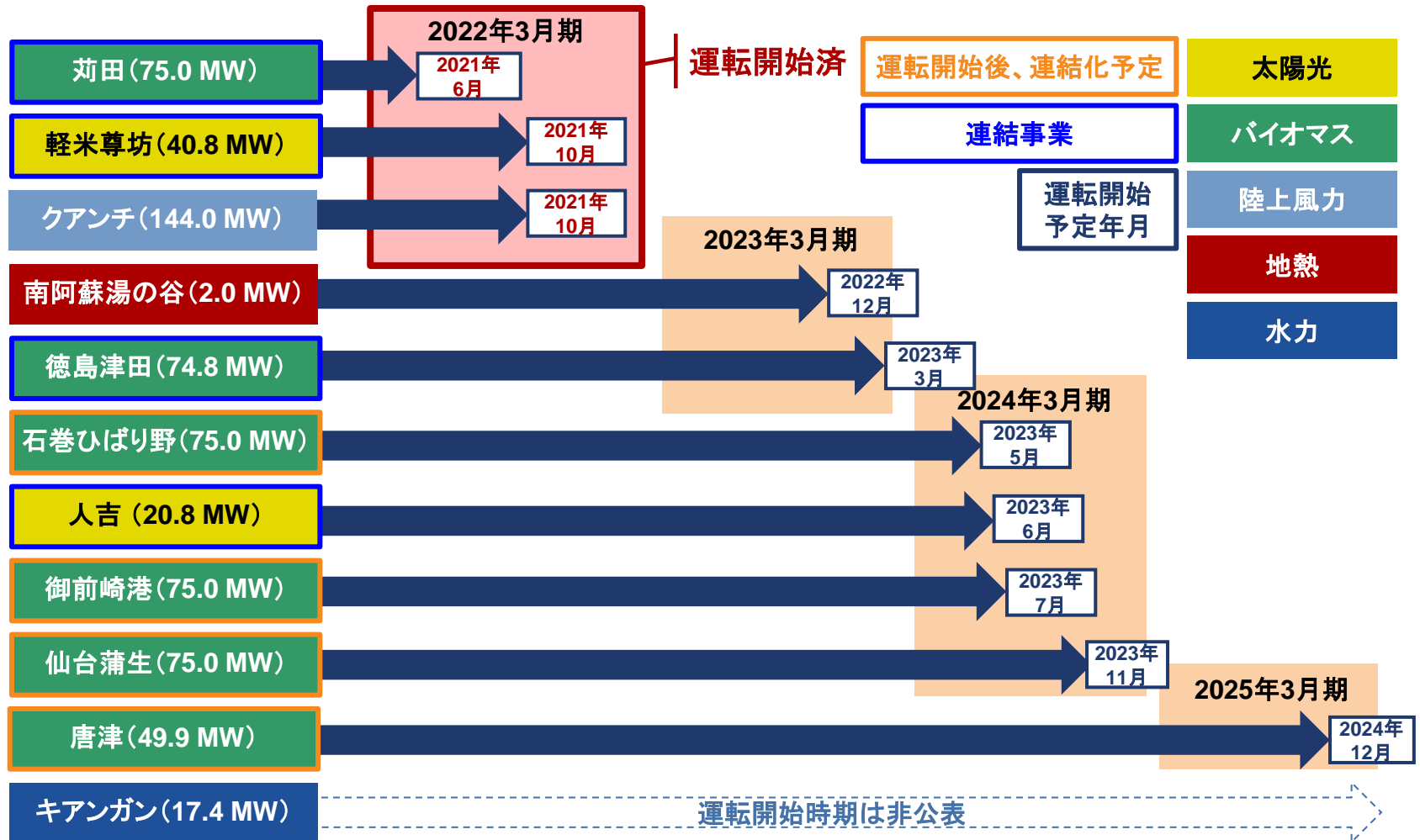
## Ⅱ. 建設中及び開発中事業の状況

南阿蘇湯の谷地熱(2.0 MW、熊本県阿蘇郡南阿蘇村)

# 建設中事業の運転開始スケジュール<sup>\*1\*2</sup>

2021年11月現在

- 2021年10月に、軽米尊坊ソーラー及びクアンチ風力が運転開始
- 来年度以降に運転開始予定の全8事業<sup>\*2</sup>の建設は予定通りに進捗



<sup>\*1</sup> 建設中の事業の運転開始の年月は、現状における予定であり、変更、遅延となる可能性がある。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

<sup>\*2</sup> 2021年8月に着工したキアンガン水力(17.4 MW)の運転開始は非公表



# 建設中事業の進捗\*1

2021年11月現在

■ バイオマス5事業は、タービン建屋の建設及び基礎工事等が順調に進捗

<p><b>徳島津田バイオマス</b> (74.8 MW、徳島県徳島市)</p> <p>ボイラ設備の据付 (2021年9月)</p>  <p>2023年3月運転開始(予定)*2</p>	<p><b>石巻ひばり野バイオマス</b> (75.0 MW、宮城県石巻市)</p> <p>ボイラ設備の据付 (2021年10月)</p>  <p>2023年5月運転開始(予定)*2</p>	<p><b>御前崎港バイオマス</b> (75.0 MW、静岡県御前崎市他)</p> <p>ボイラ設備の 基礎工事 (2021年10月)</p>  <p>2023年7月運転開始(予定)*2</p>
<p><b>仙台蒲生バイオマス</b> (75.0 MW、宮城県仙台市)</p> <p>燃料タンク躯体工事 (2021年10月)</p>  <p>2023年11月運転開始(予定)*2</p>	<p><b>唐津バイオマス</b> (49.9 MW、佐賀県唐津市)</p> <p>造成工事 (2021年10月)</p>  <p>2024年12月運転開始(予定)*2</p>	

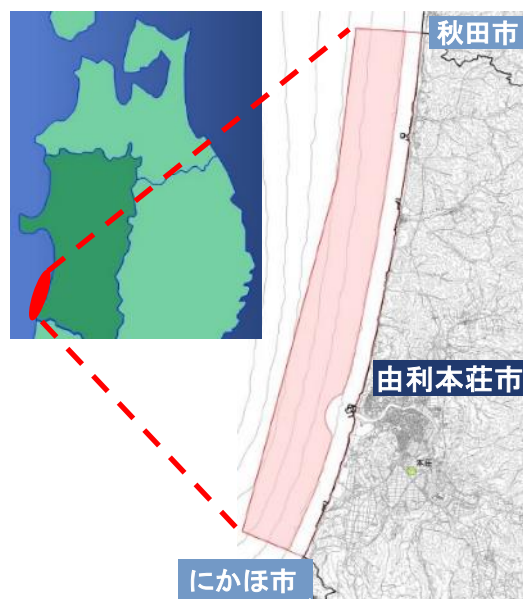
\*1 EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

\*2 現状の計画値であり、変動する可能性がある

# 開発中事業：秋田県由利本荘市沖洋上風力事業(約 [700] MW<sup>\*1</sup>)

2021年11月4日時点

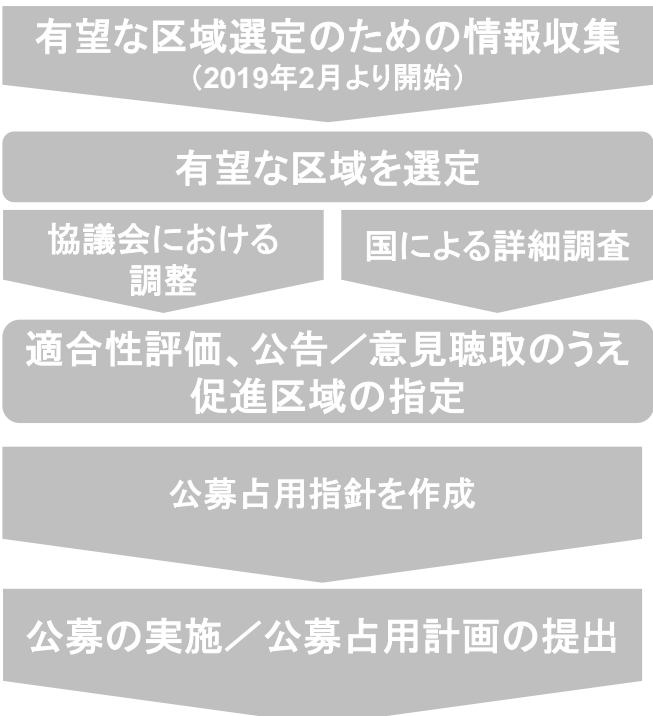
- レノバが開発をリードする秋田県由利本荘市沖における大規模洋上風力事業
- 現在公募プロセス中であり、2021年5月中に、公募占用計画を提出



設備容量	約 [700] MW <sup>*1</sup>
出資者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ レノバ(リード事業)</li> <li>■ コスモエコパワー</li> <li>■ JR東日本エネルギー開発</li> <li>■ 東北電力</li> </ul>

促進区域の  
指定  
プロセス

公募  
プロセス



2段階の審査及び評価を経て  
事業者選定

5ヶ月~<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> 公募の実施を踏まえ、由利本荘洋上風力事業のスケジュールは未定であり、規模は暫定値

<sup>\*2</sup> 海洋再生可能エネルギー発電設備整備促進区域に係る公募占用指針について

([https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku\\_gas/saisei\\_kano/yojo\\_furyoku/pdf/006\\_01\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/saisei_kano/yojo_furyoku/pdf/006_01_00.pdf))より

# 千葉県いすみ市沖洋上風力事業 ( [350- 450] MW<sup>\*1</sup> )

2021年11月1日現在

- レノバがリードで開発する千葉県いすみ市沖の大規模洋上風力事業
- 2021年9月に、いすみ市沖は有望な区域に指定

事業エリアの概要<sup>\*2</sup>



事業概要<sup>\*1 \*2</sup>

候補海域	太東・大原沖 (離岸距離約3km以上)
設備容量 <sup>*1</sup>	[350- 450] MW
基礎形式	着床式
風車規模 <sup>*2</sup>	1機あたりの出力 [9.5- 15] MW

**レノバがリードで開発する2事業目の洋上風力事業。  
地域との共存共栄の理念のもとに、事業実現を目指し開発中**

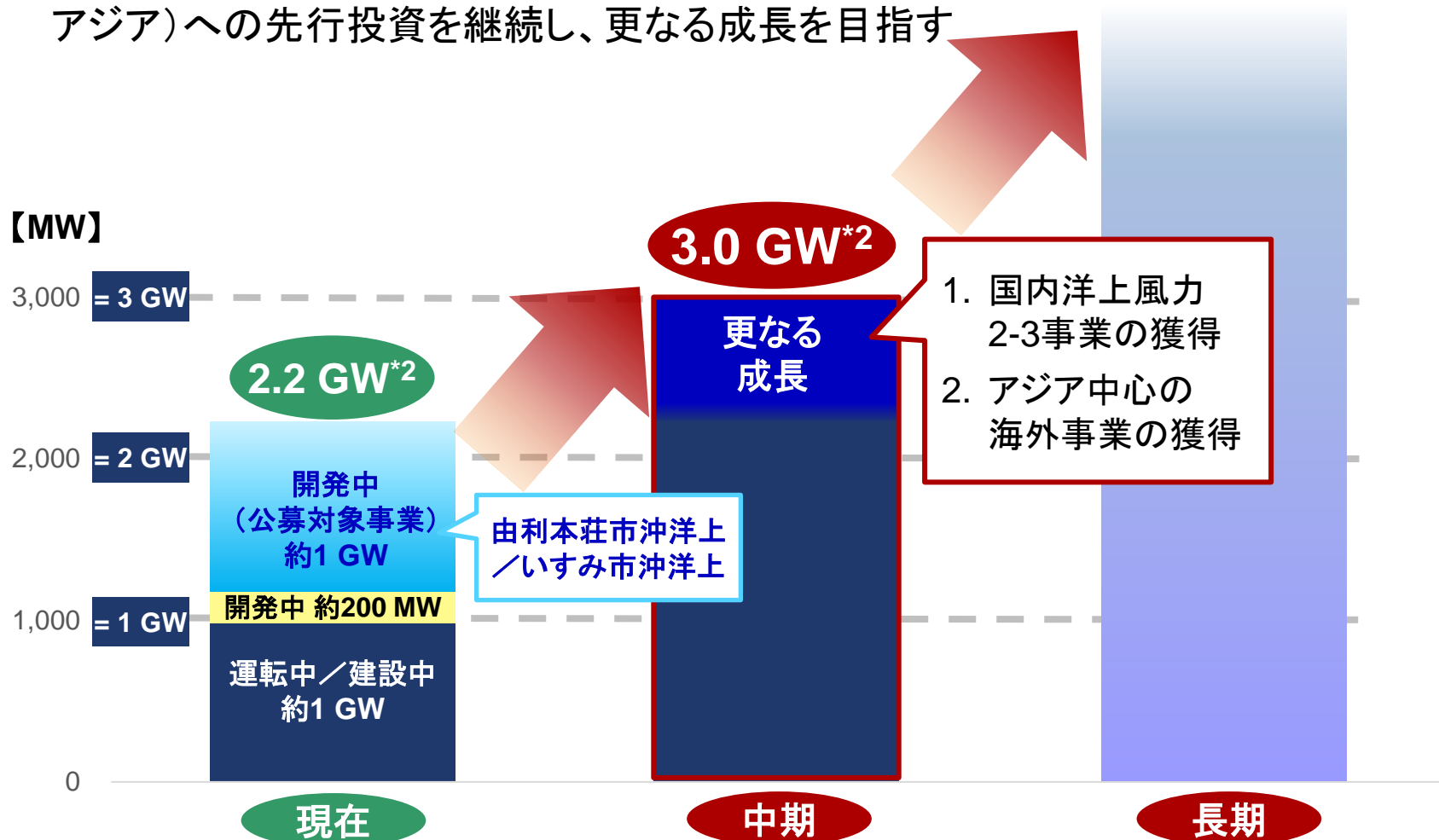
<sup>\*1</sup> いすみ市沖洋上風力事業のスケジュールは未定であり、規模は暫定値

<sup>\*2</sup> 現状の計画であり、変動する可能性があります

# 今後の成長目標の規模

2021年11月現在

- 運転中、建設中、開発中事業を含めて 2.2 GWの事業を手掛ける
- 中長期の成長のために、成長分野である国内洋上風力事業や海外事業(特にアジア)への先行投資を継続し、更なる成長を目指す



\*1 運転中及び建設中事業の合計設備容量。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

\*2 1GW(ギガワット)=1,000 MW。公募対象事業を含む。



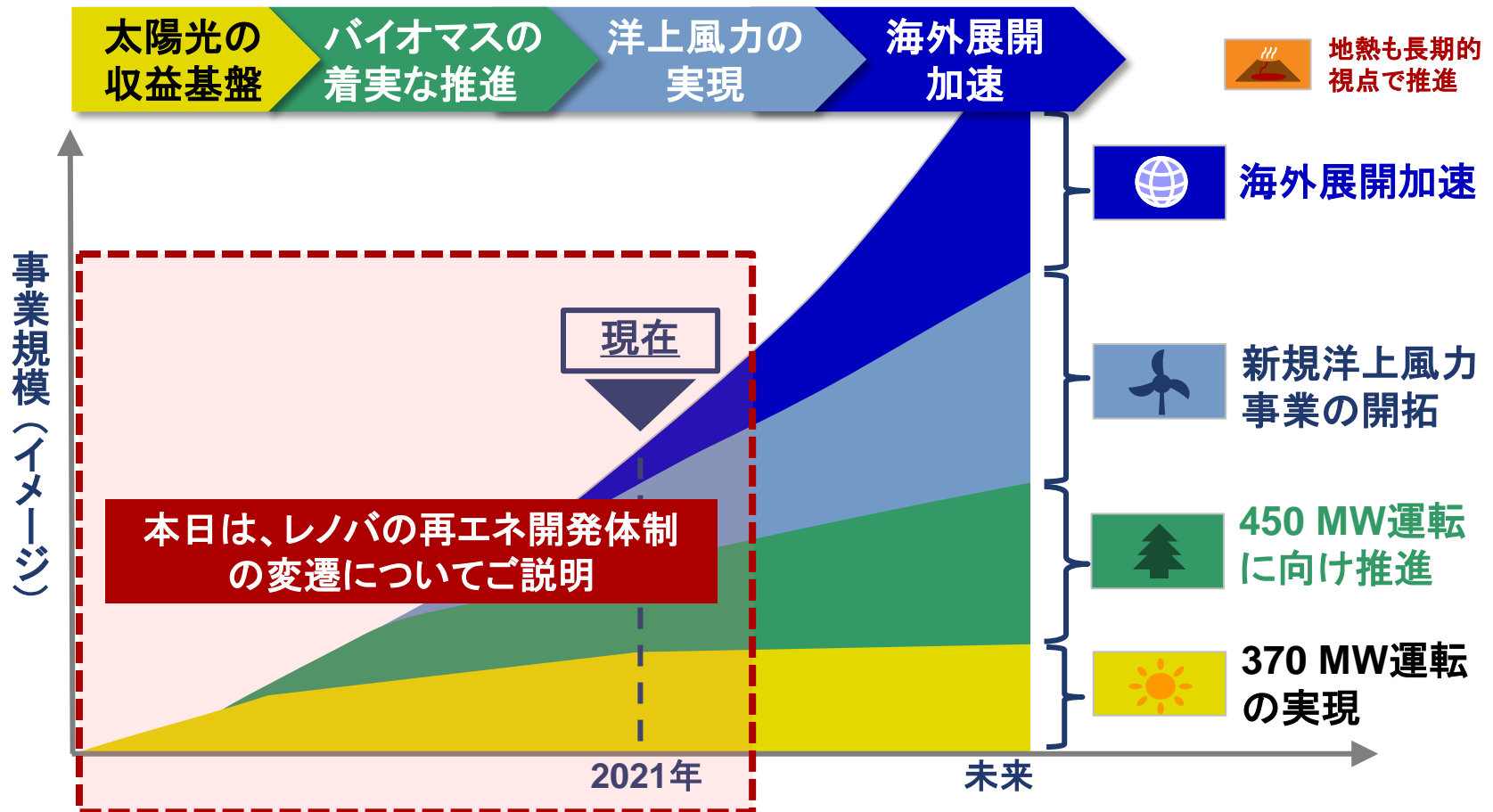
### Ⅲ. レノバの組織戦略と競合優位性



# レノバの成長イメージ

洋上風力の開発を推進しつつ、海外展開を加速

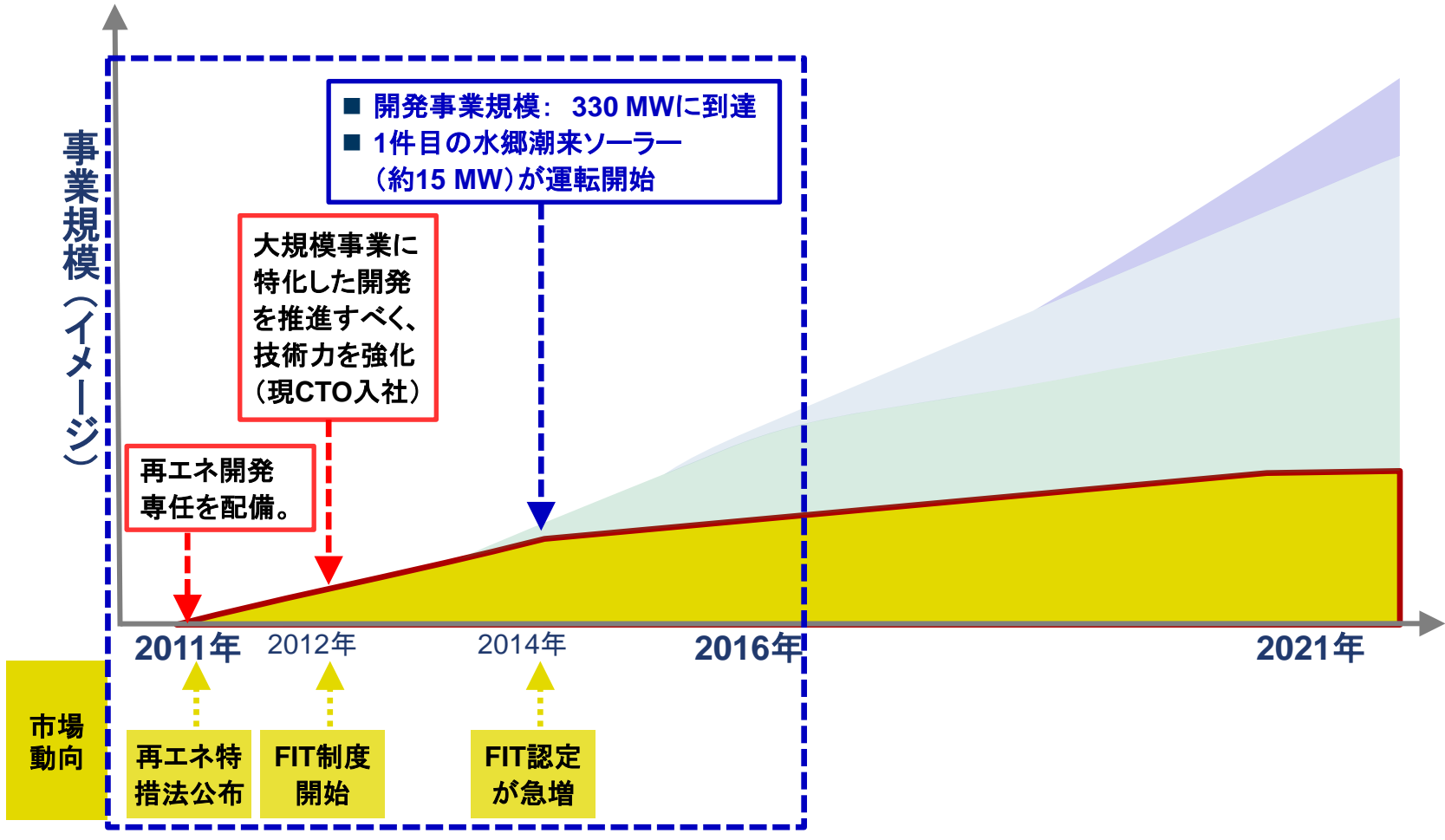
- 洋上風力及び海外事業を成長領域として投資を加速
- 長期的な成長のために、新規事業の開発を一層強化していく



# 国内再エネ市場の黎明期、事業の垂直立ち上げ

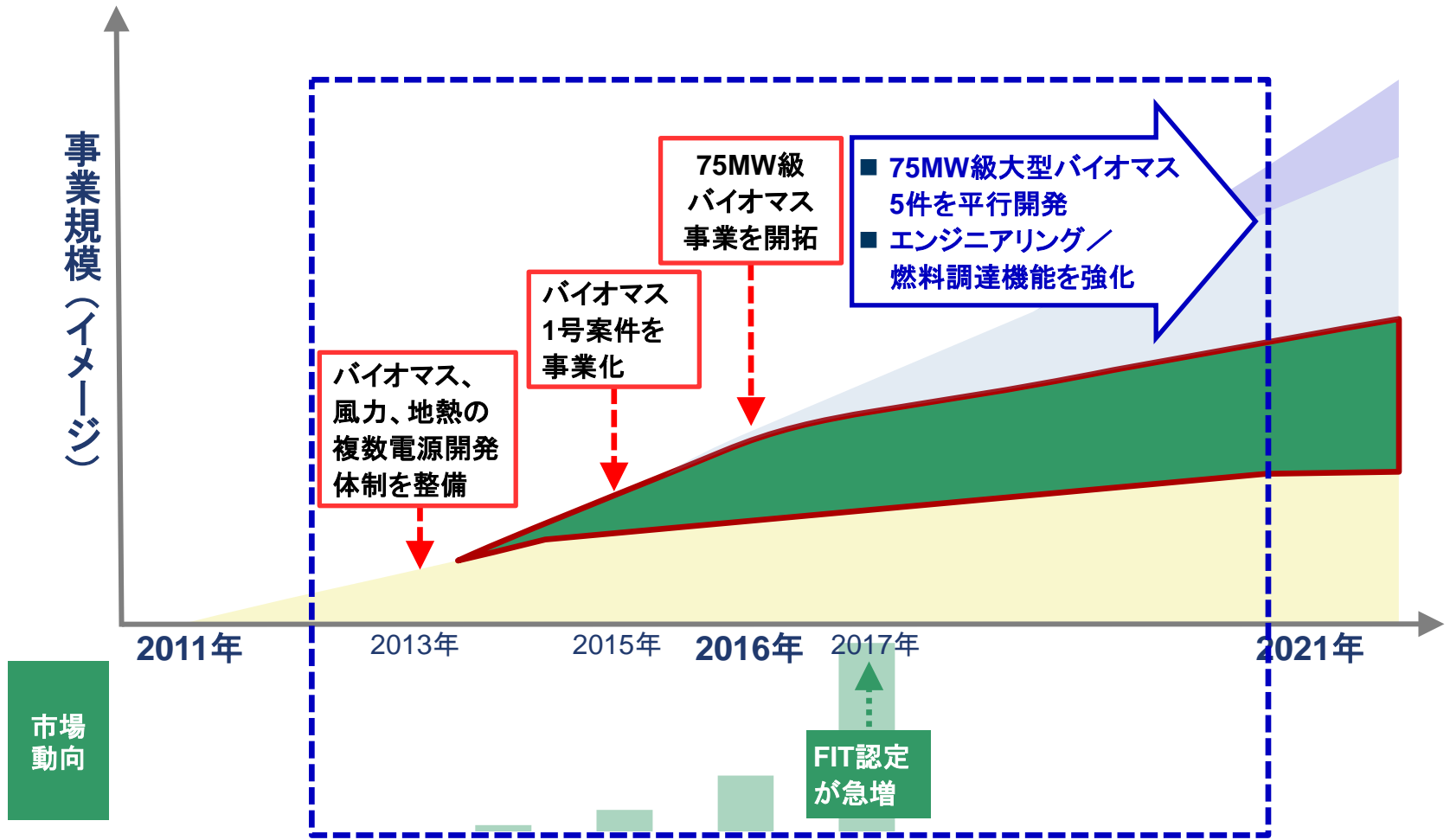
## 太陽光事業の立ち上げ／拡大

- 国内再エネ市場の黎明期において、先んじて大型事業の開発体制を構築／垂直立ち上げを実現



# バイオマスによる成長／開発パイプラインの拡大

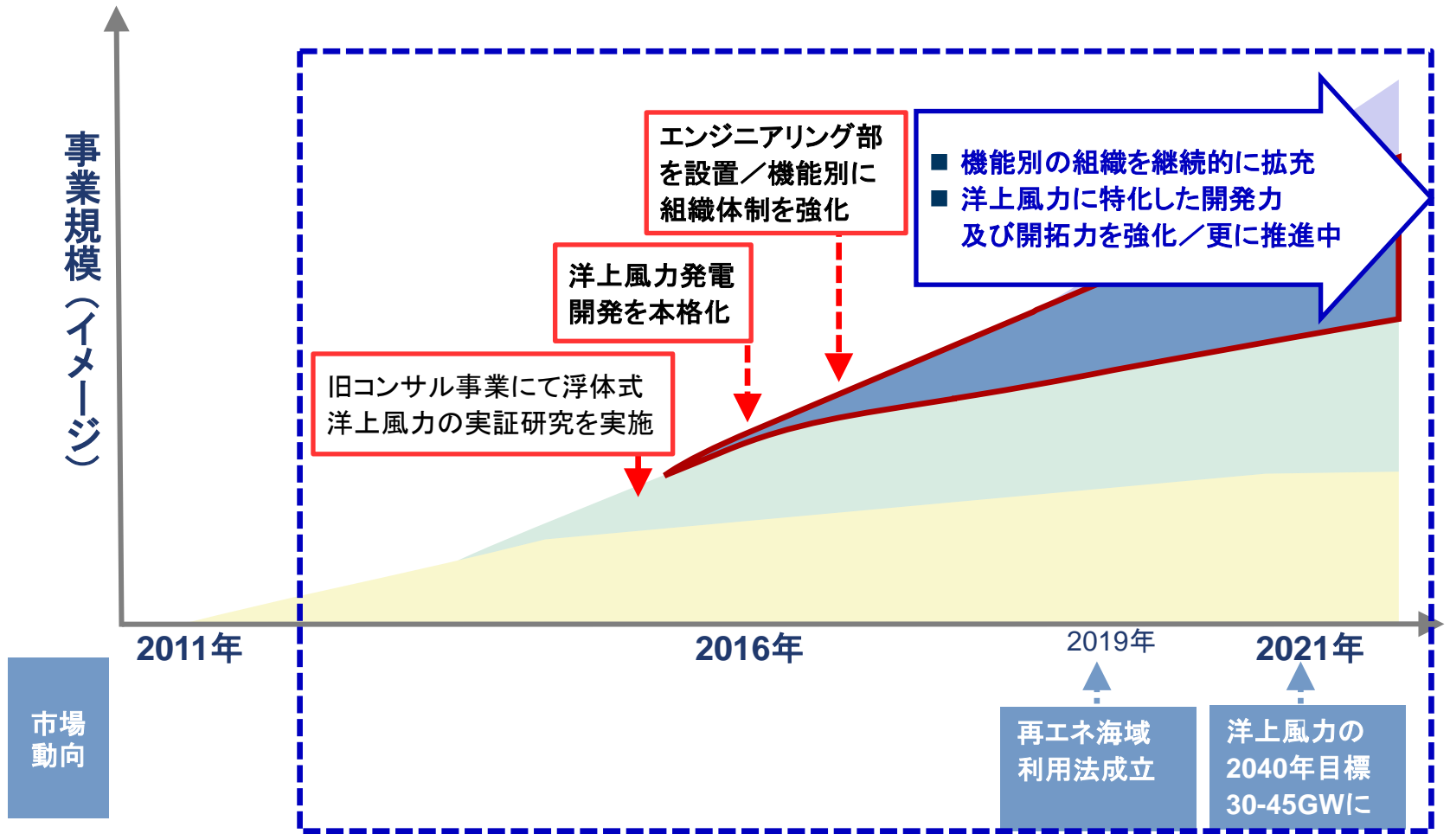
- 複数電源を開発する体制を構築
- 成長ポテンシャルの高いバイオマス市場に早期に取り組み、高い成長を実現





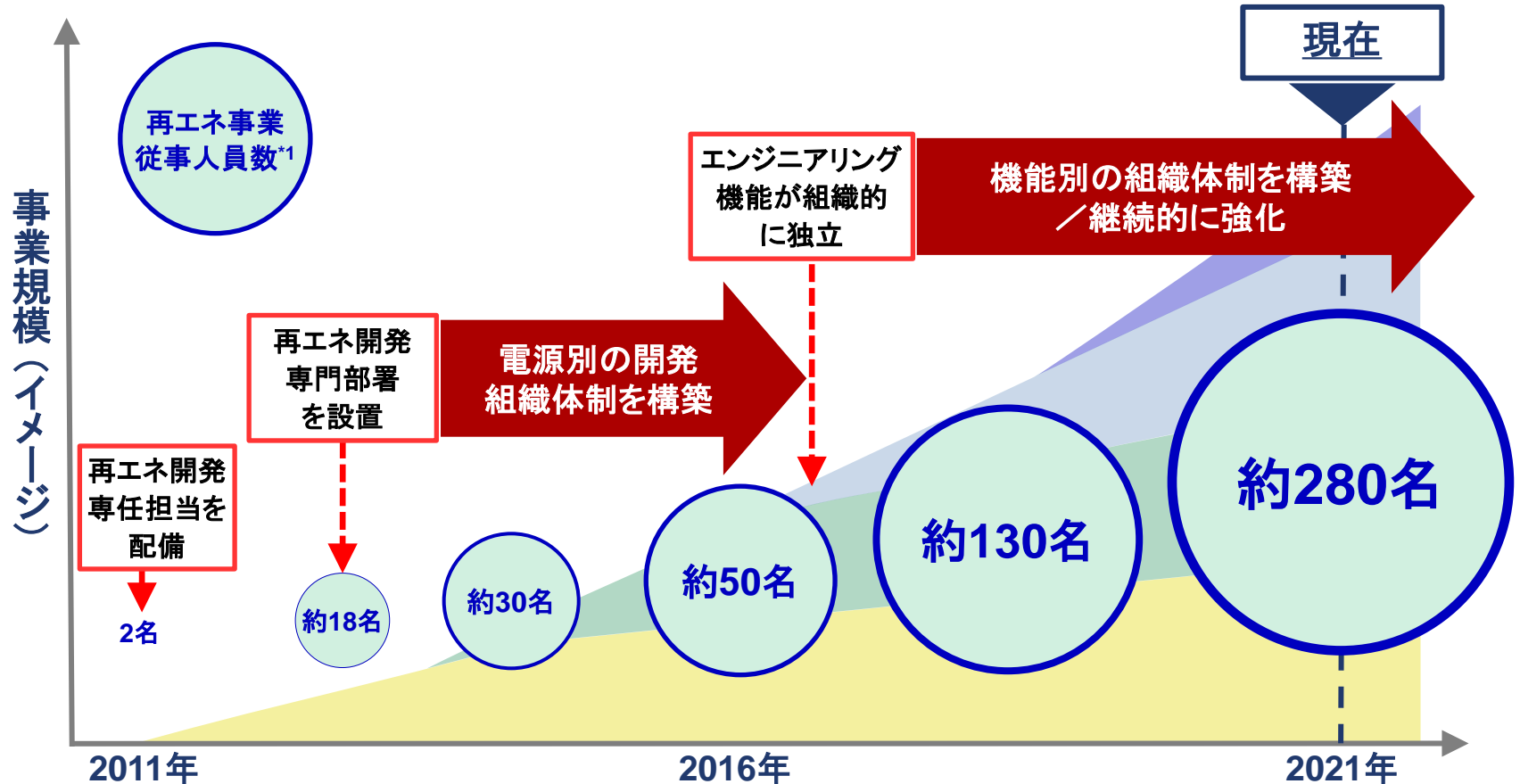
# 洋上風力による更なる成長フェーズ

- グローバルの潮流を見越し、早期に洋上風力事業の開発に着手
- 先行的に人材とノウハウを拡充し、市場拡大期において強みを確立



# 開発体制の変遷概要

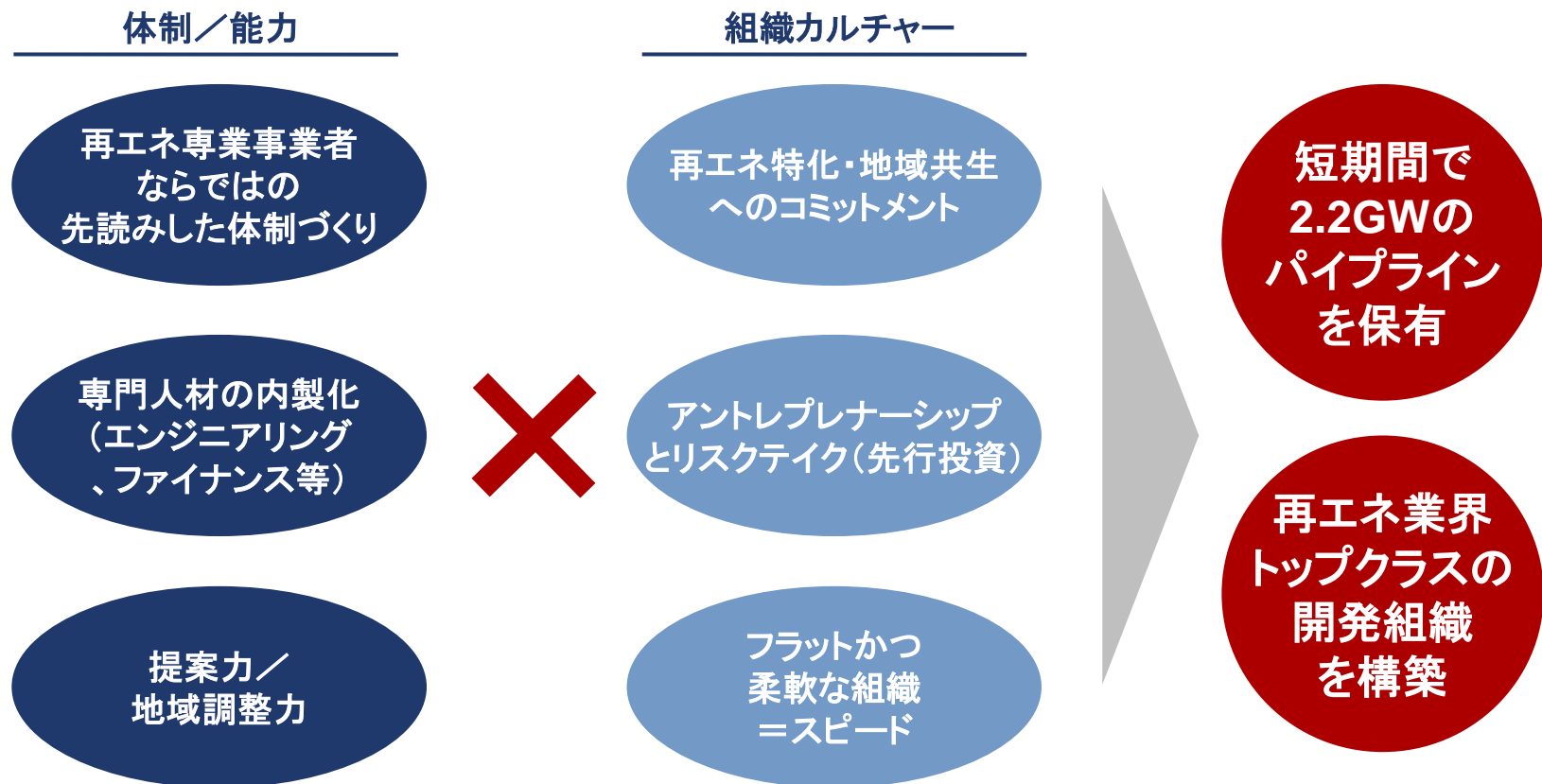
- 市場の成長を先読みし、人員含む先行投資(リスクテイク)を行い、機動的に組織編成して早期に強みを確立できることが、レノバの成長力の源泉



\*1 2016年以前の人員数は、全社人員数からプラスチックリサイクル事業及び環境コンサルティング事業従事者の人員数を差し引いた人数で表示

## レノバの特徴／強みのまとめ

- 市場の「半歩先」を先読みして体制を整備することで開発力を高め、スピーディかつ適切なリスクテイクを行うことができるカルチャーにより実績を積み上げ
- 業界トップクラスのパイプラインと開発組織を持つに至る



# レノバの競合優位性

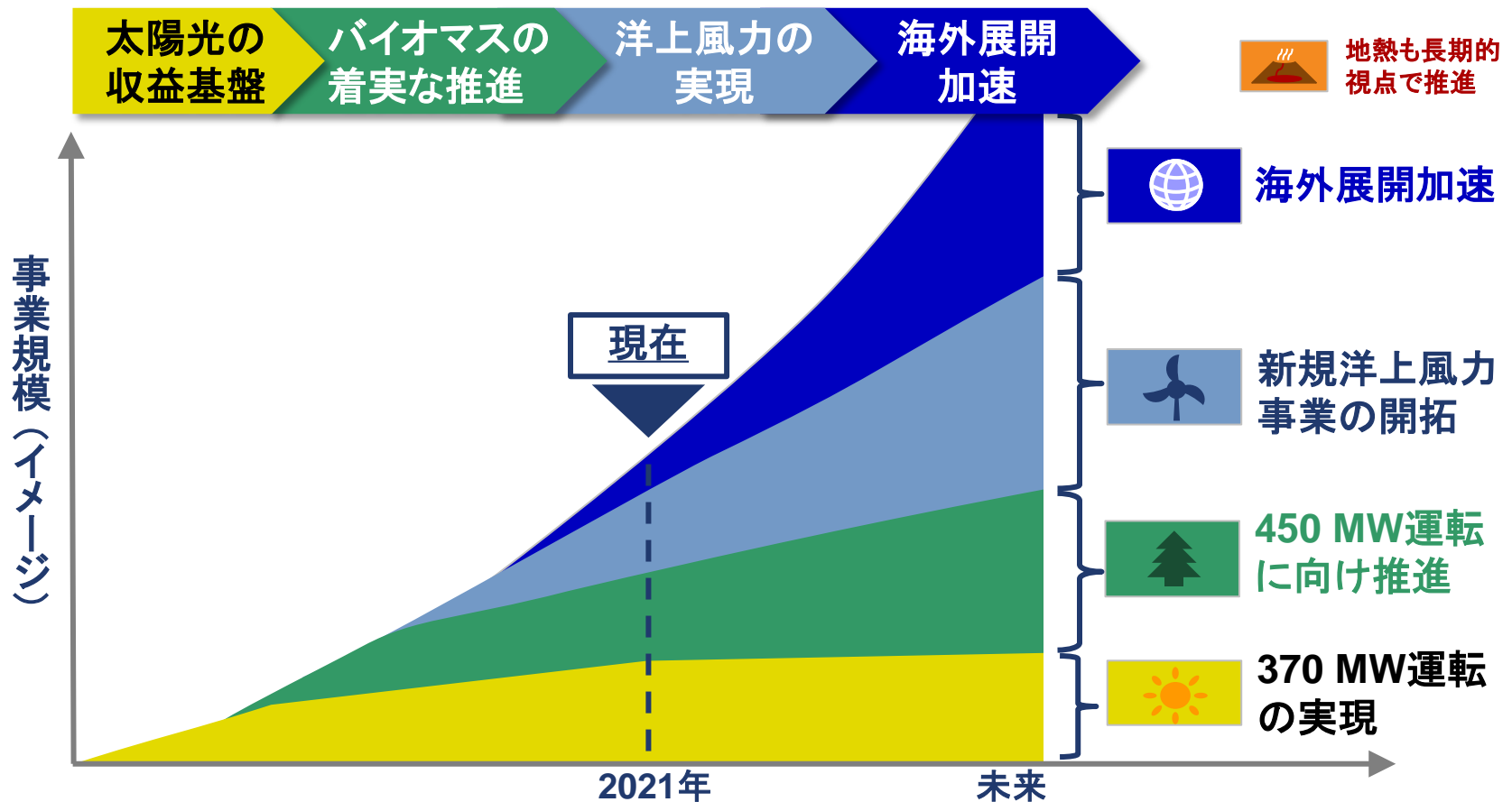
- 再エネ事業の専門プレイヤーならではの能力、カルチャー、コミットメントによって、各種プレイヤーとの比較においても優位性を持つ

比較対象	レノバの優位性
国内電力／ユーティリティ／エネルギー事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>✔ アンブレプレナーシップとリスクテイク</li> <li>✔ 柔軟かつフラットな組織構造による意思決定スピード</li> <li>✔ 約30件の大型事業の開発を通じて蓄積された、層の厚い再エネ専門人材と知見</li> </ul>
商社／金融プレイヤー	<ul style="list-style-type: none"> <li>✔ 約50名のインハウスのエンジニアによるコスト低減力</li> <li>✔ 再エネ事業に100%コミットした専門性の高い開発陣による、熟度の高い事業計画</li> </ul>
海外再エネ事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>✔ 地域に対する高いコミットメントと、約40名の開発推進チームによる高い地域調整力</li> <li>✔ 国内の制度／事業環境を深く理解したエンジニアによる実現性の高い設計／計画</li> </ul>



# 日本とアジアのリーディングカンパニーへ

## ■ 洋上風力及び海外事業を成長領域として投資を加速



ミッション / 経営理念

グリーンかつ自立可能なエネルギー・システムを構築し  
重要な社会的課題を解決する

ビジョン / 目指すべき企業の姿

日本とアジアにおけるエネルギー変革の  
リーディング・カンパニーとなること

自然と、あなたと、ともに未来へ。

REN  VA

## IV. Appendix



# 2022年3月期 第2四半期決算補足資料

自然と、あなたと、ともに未来へ。



2021年11月4日



## 注意事項

---

本資料は、株式会社レノバ(以下「弊社」といいます。)及び弊社グループの企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、弊社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、弊社はその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではなく、また、弊社はその内容を更新する義務を負うものでもありません。

また、本資料に記載される弊社グループの計画、見通し、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における弊社の判断又は考えにすぎず、実際の弊社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外のエネルギー政策、法令、制度、市場等の動向、弊社グループの事業に必要な許認可の状況、土地や発電設備等の取得・開発の成否、天候、気候、自然環境等の変動等により、本資料記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

本資料の記載金額は、原則、連結数値を使用、百万円未満は四捨五入としているため、各欄の合計値と合致しない場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先  
株式会社レノバ IR室  
電話 : 03-3516-6263  
メール: [ir@renovainc.com](mailto:ir@renovainc.com)  
IRサイト: <https://www.renovainc.com/ir>

I. 2022年3月期第2四半期決算(IFRS)

## 2022年3月期第2四半期連結決算(IFRS)及び直近のハイライト

1

2021年8月、唐津バイオマス(49.9 MW<sup>\*1</sup>)は  
融資関連契約を締結、着工

2

2021年8月、キアンガン水力(17.4 MW<sup>\*2</sup>)は  
融資関連契約を締結、着工

3

2021年10月、クアンチ風力(144.0 MW<sup>\*2</sup>)  
及び軽米尊坊ソーラー(40.8 MW)が運転開始

4

2021年9月、いすみ市沖が  
洋上風力事業に係る「有望な区域<sup>\*3</sup>」に選定

\*1 地熱及びバイオマス発電は発電端出力ベースの設備容量表記

\*2 許認可ベースでの設備容量

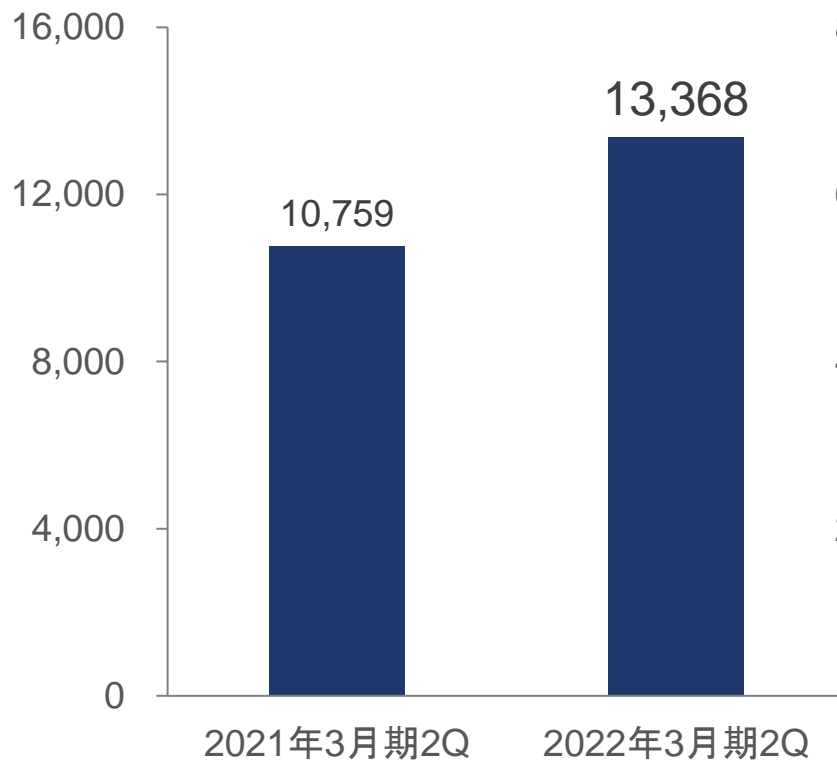
\*3 海洋再生可能エネルギー発電設備整備促進区域指定ガイドラインに記載されている有望な区域の選定条件に合致していると認められる区域

# 連結売上収益及び連結EBITDA<sup>\*1</sup>の推移(IFRS)

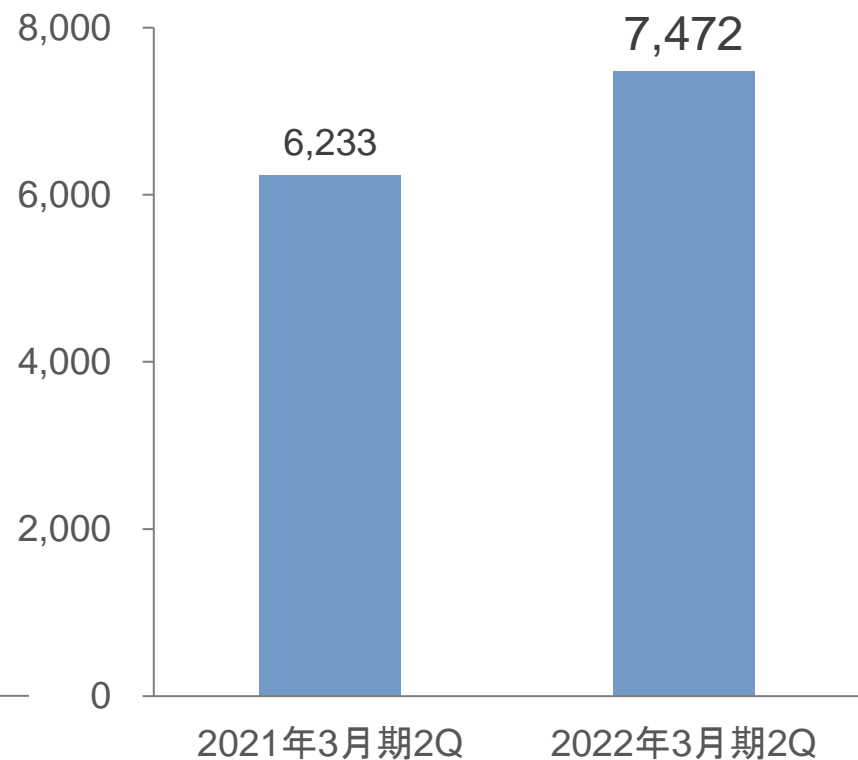
(単位: 百万円)

- 売上収益及びEBITDAは、苅田バイオマスの連結化に伴い前年同期から増収増益、計画通りの進捗
  - 当四半期における事業開発報酬は、前年同四半期の計上額と同等の額を計上

## 連結売上収益(実績)



## 連結EBITDA<sup>\*1</sup>(実績)



<sup>\*1</sup> EBITDA = 売上収益 - 燃料費 - 外注費 - 人件費 + 持分法による投資損益 + その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外



## 連結業績ハイライト(IFRS)

(単位: 百万円)

- 親会社の所有者に帰属する四半期利益は、売上収益及びEBITDAの成長に加えて、企業結合に伴う再測定による利益の計上等の影響に伴い、前年同期比で増益

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2022年3月期 (通期計画)	通期進捗率
売上収益	10,759	13,368	30,000	44.6%
EBITDA*1	6,233	7,472	12,600	59.3%
EBITDA マージン	57.9%	55.9%	42.0%	-
営業利益	3,233	4,016	4,700	85.4%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	1,302	7,237	5,100	141.9%
EPS(円)*2	17.01	92.90	65.31	-
LTM ROE*3	-	83.2%	36.2%	-
運転中発電所数 (括弧は持分法適用の数)	12(0)	13(0)	14(1)	-
設備容量(MW)*4	333.3	408.3	593.1	-

\*1 EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

\*2 EPSは潜在株式調整を考慮しない数値 \*3 ROE における親会社の所有者に帰属する持分は、12ヶ月間の期首・期末の単純平均値を使用

\*4 設備容量は弊社持分比率を考慮しないグロス値で表示

## セグメント別連結業績(IFRS)

(単位: 百万円)

- 再生可能エネルギー発電事業は、苅田バイオマスの連結化に伴い増収増益。なお、激変緩和措置期間が終了したことによる影響は軽微
- 再生可能エネルギー開発・運営事業は、前年同期と同等水準の事業開発報酬の計上により同水準の売上収益を確保。

		2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減	
再生可能エネルギー 発電事業	(A)	売上収益	9,688	12,213	26.1%
		EBITDA <sup>*2</sup>	7,359	8,691	15.3%
		営業利益	4,603	5,297	15.1%
再生可能エネルギー 開発・運営事業 + 連結消去	(B) <sup>*1</sup>	売上収益	1,071	1,155	0.8%
		EBITDA <sup>*2</sup>	▲1,306	▲1,219	NM
		営業利益	▲1,370	▲1,281	NM
合計	(A) + (B) <sup>*1</sup>	売上収益	10,759	13,368	24.2%
		EBITDA <sup>*2</sup>	6,233	7,472	19.9%
		営業利益	3,233	4,016	24.2%

\*1 子会社や関連会社に対する弊社の持分に相当する事業開発報酬等については、連結決算上は連結グループ内取引として連結消去

\*2 EBITDA = 売上収益 - 燃料費 - 外注費 - 人件費 + 持分法による投資損益 + その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

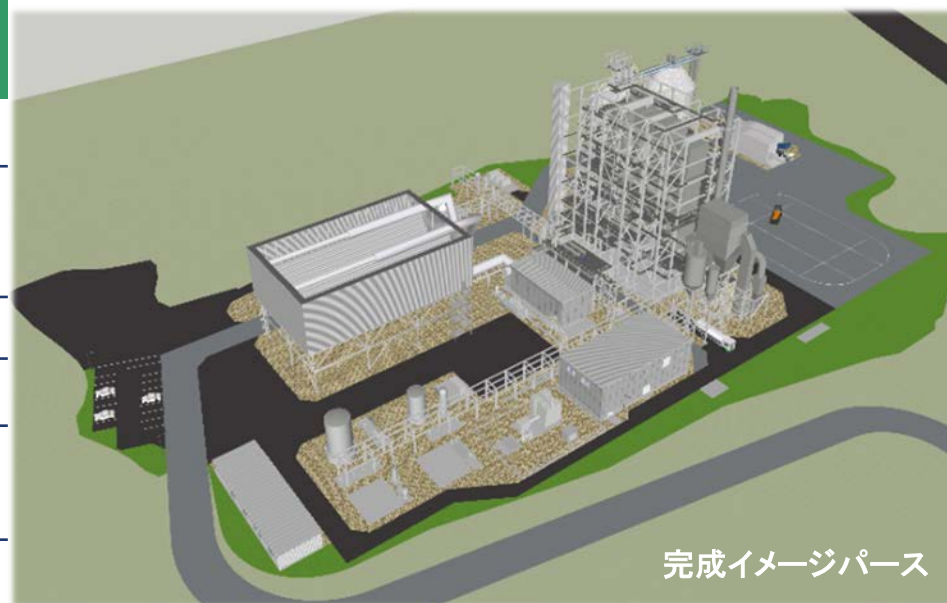
# 唐津バイオマス(49.9 MW、佐賀県唐津市、建設中)\*1

2021年11月現在

- これまで培ってきたバイオマス開発の豊富な知見を元に、レノバが開発を主導
- 2021年8月、最終投資意思決定を行い建設開始

## 唐津バイオマス(佐賀県唐津市)

設備容量*2	49.9 MW
主燃料	輸入木質ペレット (PKS併用)
FIT 単価	24円 / kWh
運転開始	2024年12月 (予定)
想定売上高*3	約80億円 / 年
総事業費*4	約380億円
LTC	90.0%
出資会社	レノバ:35.0%*5 東邦ガス:34.0% JA三井リース:16.0% イノセント:15.0%



7件目となる大型バイオマス事業。  
これまでの経験と知見を活かし、開発を主導

\*1 EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記 \*2 バイオマス発電は発電端出力ベースの設備容量表記

\*3 現状の計画であり、変動する可能性がある

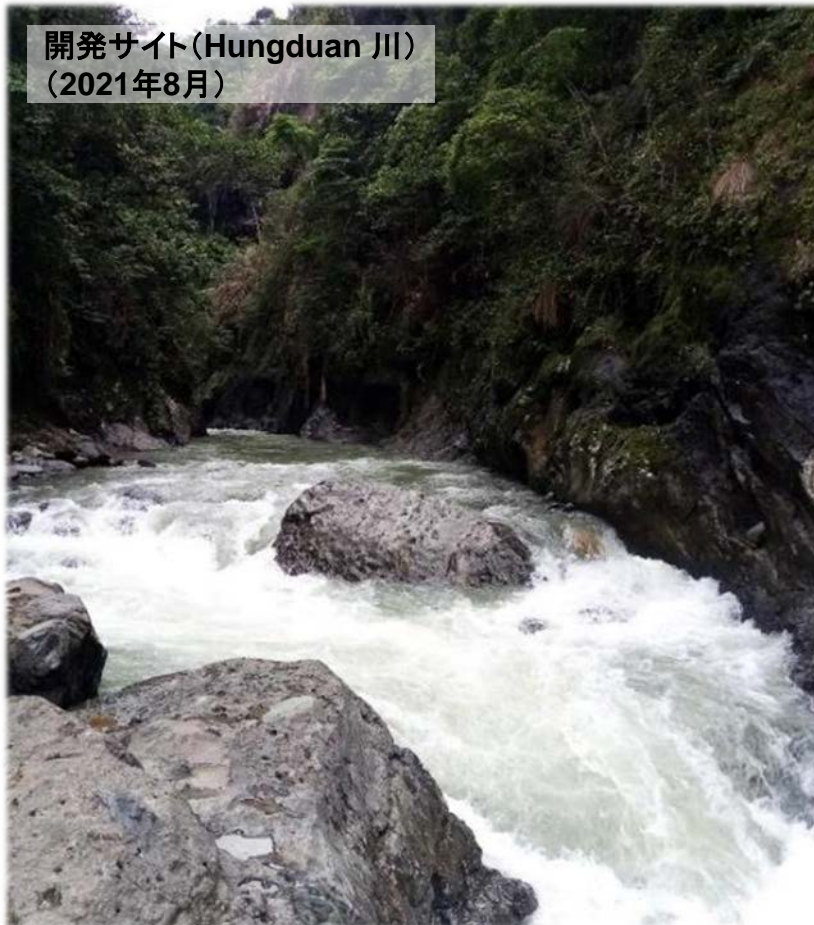
\*4 発電関連設備、建屋、土地、土木造成、ファイナンス関連費用(リザーブ等含む)、開業関連費用など、運転開始までにかかる全ての支出を含んだ金額

\*5 発電所の完成日以降に、一部の出資会社が保有する特別目的会社出資持分(出資比率: 16.0%)を買い増す権利を有す。当該権利を行使した場合は、弊社の出資比率は 51.0%

# キアンガン水力(17.4 MW、フィリピン、建設中)\*1

2021年11月現在

- レノバが開発に参画した初の水力発電事業であり、海外事業としては、2事業目
- 2021年8月、最終投資意思決定を行い建設開始



開発サイト(Hungduan 川)  
(2021年8月)

## 事業概要

設備容量	17.4 MW (許認可ベース)
FIT価格*2 3 4	5.87 PHP/kWh (約¥11.7 /kWh)
出資会社	レノバ: 40.0% Alternergy Renewables Corporation: 30.0% Santa Clara International Corporation: 30.0%

**初の水力発電事業であり、海外事業としては、2事業目。土木工事はすでに順調に進捗**

\*1 EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

\*2 小水力発電に関する FIT 対象枠の残存期間中に運転開始した場合の想定 FIT 単価

\*3 フィリピンペソ=2円で換算した参考値 \*4 現状の計画であり、変動する可能性がある



# クアンチ風力(ベトナム、144.0 MW)の運転開始

2021年11月現在

- 2020年5月、レノバが参画した初の海外事業
- 2021年10月末までに各事業区画が順次運転開始

## 事業概要

設備容量	144.0 MW
FIT単価 <sup>*1*2</sup>	8.5 cents (US\$) / kWh (約9.3 円)
想定 売上収益 <sup>*2*3</sup>	約45 MM (US\$) / 年 (約50億円 / 年)
出資比率	PCC1 <sup>*4</sup> 他: 60.0% レノバ: 40.0%



発電サイトの眺望①  
(2021年9月)



発電サイトの眺望②  
(2021年10月)

**2021年10月に運転開始**

\*1 ベトナムのFITスキームに則り売電

\*2 \$1=110円で換算した参考値 \*3 現状の計画であり、変動する可能性がある

\*4 Power Construction Joint Stock Company No.1

# 軽米尊坊ソーラー(岩手県九戸郡軽米町、40.8 MW)の運転開始

## 2021年11月現在

- 2021年10月、運転開始。今期は6ヶ月の連結業績寄与
- 運転開始後、コールオプションを行使し出資持分を追加取得。出資持分は55.0%

発電サイトの眺望  
(2021年10月)



### 事業概要

設備容量*1	40.8 MW
FIT単価	36円 / kWh
想定売上収益*2	約17億円 / 年
想定EBITDA マージン	約80%
総事業費*3	約170億円
LTC	90.0%
出資比率	レノバ: 55.0% 第一生命保険: 45.0%

**2021年10月に運転開始**

\*1 モジュールベースの設備容量表記

\*2 現状の計画であり、変動する可能性がある

\*3 発電関連設備、土地、土木造成、ファイナンス関連費用(リザーブ等含む)、開業関連費用など、運転開始までにかかる全ての支出を含んだ金額

# 連結資本構成 (IFRS)

(単位: 百万円)

- 四半期利益の計上に加えて、バイオマス事業の燃料調達に係る長期為替予約の公正価値変動の影響に伴い、資本比率は上昇

		2021年3月期 期末	2022年3月期 第2四半期末	増減	主な増減要因
主要BS項目	資産合計	220,546	290,394	69,848	苅田バイオマスの連結化、 徳島津田バイオマスの建設進捗 に伴う増加
	親会社の所有者に帰属する 持分合計	15,252	29,326	14,074	利益剰余金の増加、 バイオマス事業の燃料調達に係る 長期為替予約の公正価値変動
	純有利子負債 <sup>*1</sup>	122,630	160,721	38,090	苅田バイオマスの連結化
	現預金 <sup>*2</sup>	40,356	45,016	4,661	
	有利子負債 <sup>*3</sup>	162,986	205,737	42,751	
財務健全性 指標	親会社所有者持分比率	6.9%	10.1%	3.2%	
	資本比率	11.3%	16.7%	5.4%	
	Net D / Eレシオ <sup>*4</sup>	4.9x	3.3x	▲1.6x	
	Net Debt / LTM EBITDA <sup>*5</sup>	11.5x	13.6x	2.1x	
	調整後Net Debt / LTM EBITDA <sup>*6</sup>	8.8x	8.8x	-	

\*1 純有利子負債＝有利子負債－現預金 \*2 現預金＝現金及び現金同等物＋引出制限付預金 \*3 有利子負債＝借入金＋社債＋リース負債＋その他の金融負債

\*4 Net D/Eレシオ＝純有利子負債 / 資本 \*5 LTM EBITDAは、2021年3月期 10,620百万円、2022年3月期2Q 11,859百万円

\*6 運転期間が1年未満の発電事業SPCのNet Debt及びEBITDAを除いた数値にて算出

# 連結財政状態計算書(IFRS)

(単位: 百万円)

## ■ 苧田バイオマス(75.0 MW)の連結化に伴い、資産及び有利子負債は増加

	2021年3月期 期末	2022年3月期 第2四半期末	増減	主な増減要因
流動資産	46,699	53,956	7,257	
非流動資産	173,847	236,438	62,591	
有形固定資産	104,148	141,403	37,255	苧田バイオマスの連結化に伴う増加
無形資産	19,730	38,109	18,379	
その他の金融資産	17,840	23,536	5,696	バイオマス燃料調達に係る長期為替予約の公正価値変動
その他の非流動資産	4,733	6,014	1,281	
<b>資産合計</b>	<b>220,546</b>	<b>290,394</b>	<b>69,848</b>	
有利子負債 <sup>*1</sup>	162,986	205,737	42,751	苧田バイオマスの連結化に伴う増加
その他負債	32,696	36,221	3,525	
<b>負債合計</b>	<b>195,682</b>	<b>241,958</b>	<b>46,276</b>	
利益剰余金	20,722	27,958	7,237	四半期利益による増加
その他の資本の構成要素	▲8,729	▲1,821	6,908	キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値変動
親会社の所有者に帰属する持分合計	15,252	29,326	14,074	
非支配持分	9,612	19,110	9,498	苧田バイオマスの連結化に伴う増加
<b>資本合計</b>	<b>24,864</b>	<b>48,436</b>	<b>23,572</b>	

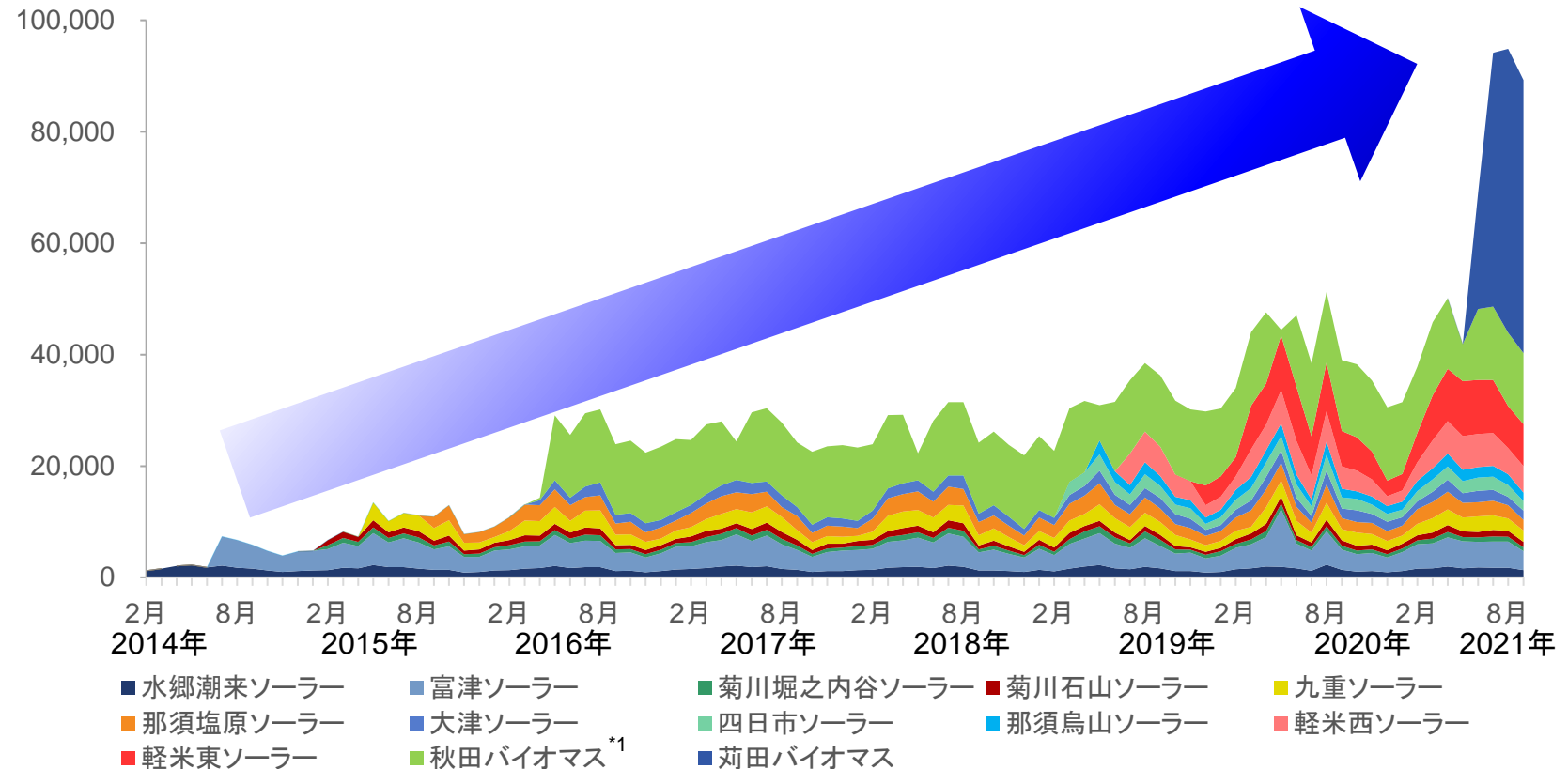
\*1 有利子負債 = 借入金 + 社債 + リース負債 + その他の金融負債

# レノバの保有する発電所における売電量の月次推移\*1

2021年9月30日時点

- 2021年6月、苅田バイオマス(75.0 MW)が運転開始
- 各発電所とも運転開始以降、安定した稼働を継続

(単位：MWh<sup>\*2</sup>)



\*1 秋田バイオマスは、毎年5月に運転を停止し、定期点検を実施

\*2 発電量をあらわす単位(1MWh=1,000kWh)



## (ご参考) 運転中の連結子会社(発電事業SPC)の単体決算の状況 (IFRS/単位: 百万円)

	設備容量 (MW)	買取価格 (/kWh)		売上収益	EBITDA	EBITDA マージン	当期利益	弊社 持分比率
水郷潮来ソーラー*1	15.3	40円	2022年3月期2Q	409	370	90.3%	155	68.0%
			2021年3月期2Q	425	362	85.2%	147	68.0%
富津ソーラー*1	40.4	40円	2022年3月期2Q	1,103	1,003	91.0%	428	51.0%
			2021年3月期2Q	1,136	1,029	90.5%	440	51.0%
菊川石山ソーラー*1	9.4	40円	2022年3月期2Q	258	231	89.3%	85	63.0%
			2021年3月期2Q	260	230	88.3%	83	63.0%
菊川堀之内谷 ソーラー*1	7.5	40円	2022年3月期2Q	203	178	87.4%	62	61.0%
			2021年3月期2Q	206	176	85.8%	60	61.0%
九重ソーラー*2 *3	25.4	40円	2022年3月期2Q	598	521	87.1%	214	100.0%
			2021年3月期2Q	617	540	87.6%	222	100.0%
那須塩原ソーラー*2 *3	26.2	40円	2022年3月期2Q	614	538	87.8%	256	100.0%
			2021年3月期2Q	650	565	87.0%	268	100.0%

\*1 株式会社 \*2 匿名組合事業

\*3 匿名組合事業に関してその課税所得は、出資割合に応じて匿名組合出資者に帰属するため、匿名組合事業としての税金費用は発生しない

## (ご参考) 運転中の連結子会社(発電事業SPC)の単体決算の状況 (IFRS/単位: 百万円)

	設備容量 (MW)	買取価格 (/kWh)		売上収益	EBITDA	EBITDA	当期利益	弊社
						マージン		持分比率
大津ソーラー <sup>*1 *2</sup>	19.0	36円	2022年3月期2Q	396	329	83.3%	102	100.0%
			2021年3月期2Q	417	353	84.8%	111	100.0%
四日市ソーラー <sup>*1 *2</sup>	21.6	36円	2022年3月期2Q	471	407	86.6%	157	100.0%
			2021年3月期2Q	509	460	90.4%	204	100.0%
那須烏山ソーラー <sup>*1 *2</sup>	19.2	36円	2022年3月期2Q	418	350	83.8%	120	100.0%
			2021年3月期2Q	411	359	87.5%	125	100.0%
軽米西ソーラー <sup>*1 *2 *3</sup>	48.0	36円	2022年3月期2Q	1,200	1,105	92.1%	441	100.0%
			2021年3月期2Q	1,092	1,008	92.3%	339	100.0%
軽米東ソーラー <sup>*1 *2 *4</sup>	80.8	36円	2022年3月期2Q	1,931	1,798	93.1%	834	100.0%
			2021年3月期2Q	1,769	1,654	93.5%	687	69.3%
秋田バイオマス (URE) <sup>*5</sup>	20.5	32円 /24円	2022年3月期2Q	2,145	668	31.1%	219	35.3%
			2021年3月期2Q	2,189	801	36.6%	286	35.3%
苅田バイオマス	75.0	24円 /32円	2022年3月期2Q	2,460	1,097	44.6%	394	53.1%
			2021年3月期2Q	-	-	-	-	43.1%

\*1 匿名組合事業 \*2 匿名組合事業に関してその課税所得は、出資割合に応じて匿名組合出資者に帰属するため、匿名組合事業としての税金費用は発生しない

\*3 2020年7月1日出資持分の追加取得により、弊社持分比率は100.0% \*4 2020年12月2日出資持分の追加取得により、弊社持分比率は100.0%

\*5 ユナイテッドリニューアブルエナジー株式会社

## II. 2022年3月期業績予想(IFRS)

# (再掲)2022年3月期連結業績予想(IFRS)

(単位: 百万円 / %)

業績予想に変更なし

- 売上収益及びEBITDAは、苅田バイオマス及び軽米尊坊ソーラーの運転開始に伴い成長
- 当期利益は、苅田バイオマスの連結化に伴う段階取得差益<sup>\*1</sup>の計上を見込む

	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (業績予想)	変化率	
売上収益	20,553	<b>30,000</b>	46.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 苅田バイオマス及び軽米尊坊ソーラーの運転開始</li> <li>■ 事業開発報酬は複数の開発事業から計上</li> <li>■ 激変緩和措置の期間の終了に伴う業績影響(▲5億円)</li> </ul>
EBITDA <sup>*2</sup>	10,620	<b>12,600</b>	18.6%	
EBITDA マージン	51.7%	<b>42.0%</b>	-	
営業利益	4,605	<b>4,700</b>	2.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人件費及び開発費用等先行投資が拡大</li> </ul>
親会社の所有者に 帰属する当期純利益	11,507	<b>5,100</b>	<b>▲55.7%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 苅田バイオマスの連結化に伴い、段階取得差益<sup>*1</sup>を計上</li> <li>■ なお、前期は徳島津田バイオマスの段階取得差益<sup>*1</sup>及び仙台蒲生バイオマスのオプション公正価値評価益を計上</li> </ul>
EPS(円) <sup>*3</sup>	149.67	<b>65.31</b>	-	
ROE <sup>*4</sup>	81.7%	<b>36.2%</b>	-	

<sup>\*1</sup> 企業結合に伴う再測定による利益 <sup>\*2</sup> EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外 <sup>\*3</sup> 2022年3月期(業績予想)のEPSは、2021年3月期末における発行済株式総数を期中平均株式数と仮定して算出 <sup>\*4</sup> ROE における親会社の所有者に帰属する持分は17連結会計年度の期首と期末の単純平均値を使用

# (再掲)2022年3月期業績予想の主な前提条件

業績予想に変更なし

## 2021年3月期(実績)

## 2022年3月期(予想)

### 発電事業 セグメント

#### 【連結】

- 太陽光発電所(運転中)11ヶ所
  - 312.8 MW
  - 全ての発電所は12ヶ月分が連結寄与
- バイオマス発電所(運転中)1ヶ所
  - 20.5 MW

#### 【連結】

- 太陽光発電所(運転中/予定)12ヶ所
  - 353.6 MW
  - 軽米尊坊ソーラー6ヶ月分の業績寄与を想定
  - 太陽光発電所の一部は需給調整/工事・点検のための出力制御に伴う影響を考慮
- バイオマス発電所(運転中/予定)2ヶ所
  - 95.5 MW
  - 苅田バイオマス8ヶ月分の業績寄与を想定
  - 計画外停止リスクバッファを考慮

#### 【持分法による投資損益】

- 陸上風力発電所(運転予定)1ヶ所
  - 144.0 MW
  - クアンチ陸上風力5ヶ月分の業績寄与を想定

### 開発・ 運営事業 セグメント

#### 【事業開発報酬】

- 26億円\*1
  - バイオマス事業2件

#### 【事業開発報酬】

- 約28億円\*1
  - 複数の開発事業からの計上を見込む

\*1 事業開発報酬は、連結消去後の数値を記載



# (再掲)再生可能エネルギー事業のセグメント別業績予想(IFRS)

(単位: 百万円)

業績予想に変更なし

- 苅田バイオマス及び軽米尊坊ソーラーの連結業績寄与に伴い、発電事業は成長
- 事業開発報酬が計上される見込みとなる一方、人件費及び開発費用等の先行投資が拡大

		2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (業績予想)	差分		
再生可能エネルギー —発電事業	(A)				<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 苅田バイオマス及び軽米尊坊ソーラーの運転開始</li> <li>■ 激変緩和措置の期間の終了に伴う業績影響(▲5億円)</li> </ul>	
		売上収益	17,651	27,000		9,349
		EBITDA <sup>*2</sup>	12,442	15,700		3,258
		営業利益	6,566	7,800	1,234	
再生可能エネルギー —開発・運営事業 +連結消去	(B) <sup>*1</sup>				<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 複数の開発事業に関する事業開発報酬を計上する見込み</li> <li>■ 人件費及び開発費用等の先行投資費用の増加を見込む</li> </ul>	
		売上収益	2,902	3,000		98
		EBITDA <sup>*2</sup>	▲1,822	▲3,100		NM
		営業利益	▲1,961	▲3,100	NM	
合計	(A) + (B) <sup>*1</sup>					
		売上収益	20,553	30,000	9,447	
		EBITDA <sup>*2</sup>	10,620	12,600	1,980	
		営業利益	4,605	4,700	95	

\*1 子会社や関連会社に対する弊社の持分に相当する事業開発報酬等については、連結決算上は連結グループ内取引として連結消去

\*2 EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

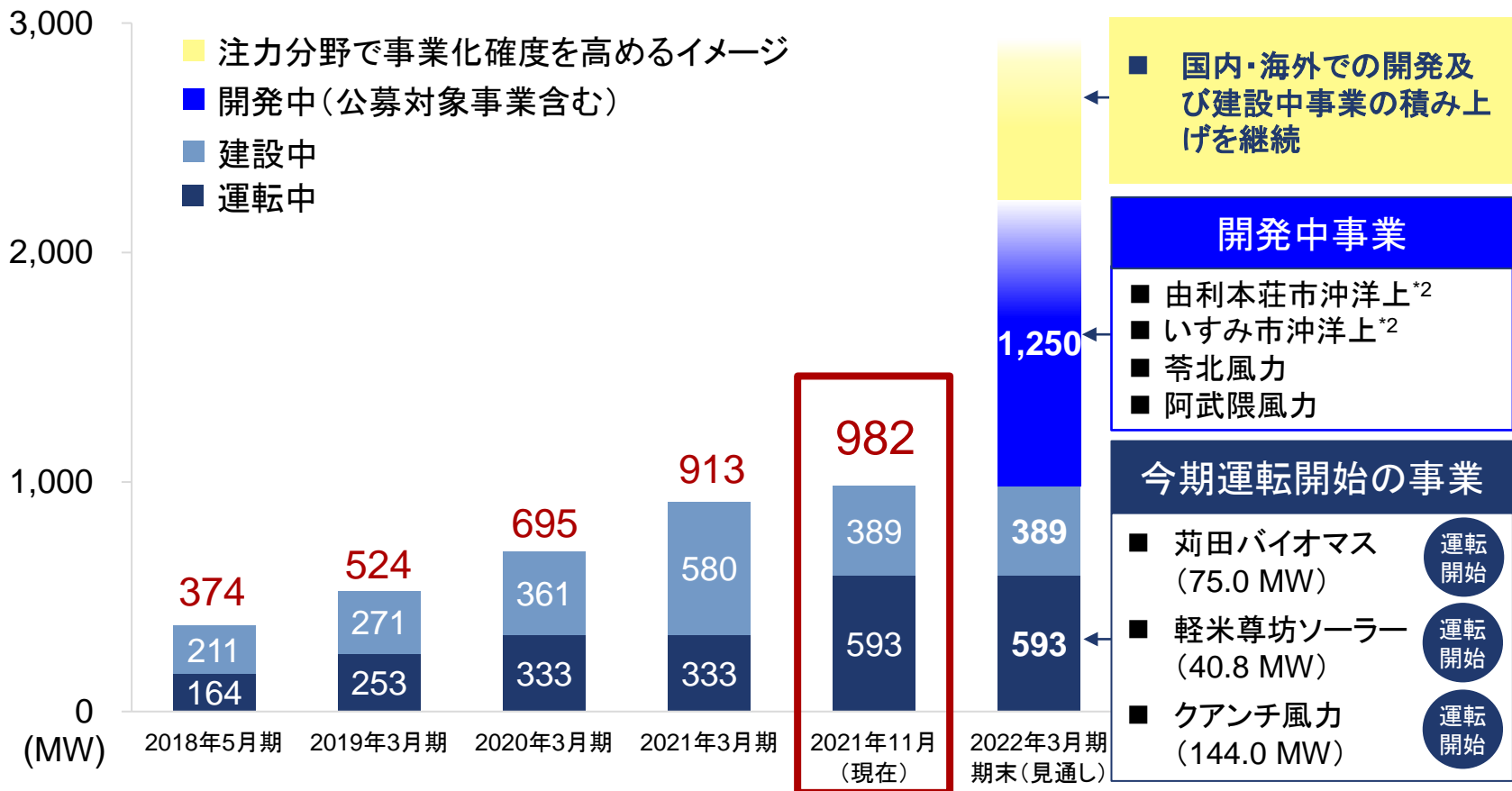
---

### Ⅲ. 事業開発状況のアップデート

# 運転中・建設中の発電事業の設備容量推移\*1

2021年11月現在

- 2021年6月、苅田バイオマス(75.0 MW)が運転開始。
- 2021年6月、南阿蘇湯の谷地熱(2.0 MW)が着工。2021年8月、唐津バイオマス(49.9 MW)及びキアンガン水力(17.4 MW)が着工
- 運転中及び建設中事業の合計設備容量は約1 GWへ増加



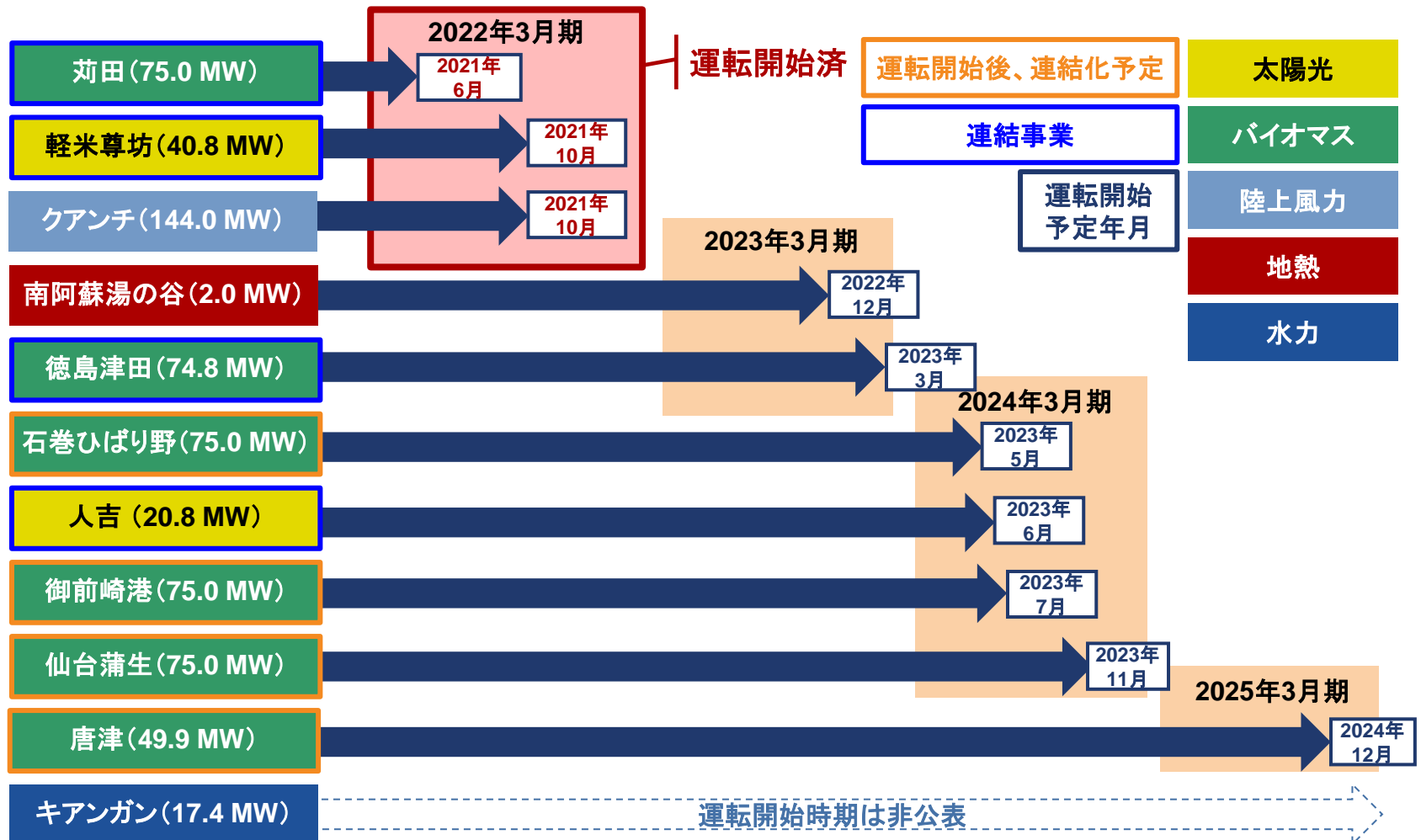
\*1 EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記しています

\*2 公募対象事業

# 建設中事業の運転開始スケジュール<sup>\*1\*2</sup>

2021年11月現在

- 2021年10月に、軽米尊坊ソーラー及びクアンチ風力が運転開始
- 来年度以降に運転開始予定の全8事業<sup>\*2</sup>の建設は予定通りに進捗





\*1 建設中の事業の運転開始の年月は、現状における予定であり、変更、遅延となる可能性がある。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

\*2 2021年8月に着工したキアンガン水力(17.4 MW)の運転開始は非公表

# 建設中事業の進捗<sup>\*1</sup> (1/2)

2021年11月現在

- タービン建屋の建設及び基礎工事等が順調に進捗

<p><b>徳島津田バイオマス</b> (74.8 MW、徳島県徳島市)</p> <p>ボイラ設備の据付 (2021年9月)</p>  <p>2023年3月運転開始(予定)<sup>*2</sup></p>	<p><b>石巻ひばり野バイオマス</b> (75.0 MW、宮城県石巻市)</p> <p>ボイラ設備の据付 (2021年10月)</p>  <p>2023年5月運転開始(予定)<sup>*2</sup></p>	<p><b>御前崎港バイオマス</b> (75.0 MW、静岡県御前崎市他)</p> <p>ボイラ設備の 基礎工事 (2021年10月)</p>  <p>2023年7月運転開始(予定)<sup>*2</sup></p>
<p><b>仙台蒲生バイオマス</b> (75.0 MW、宮城県仙台市)</p> <p>燃料タンク躯体工事 (2021年10月)</p>  <p>2023年11月運転開始(予定)<sup>*2</sup></p>	<p><b>唐津バイオマス</b> (49.9 MW、佐賀県唐津市)</p> <p>造成工事 (2021年10月)</p>  <p>2024年12月運転開始(予定)<sup>*2</sup></p>	

<sup>\*1</sup> EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

<sup>\*2</sup> 現状の計画値であり、変動する可能性がある



# 建設中事業の進捗<sup>\*1</sup> (1/2)

2021年11月現在

- 南阿蘇湯の谷地熱は、造成工事及び事務所棟の建設が順調に進捗
- 人吉ソーラーやキアンガン水力は、土木工事が順調に進捗

**南阿蘇湯の谷地熱**  
(2.0 MW、熊本県阿蘇郡南阿蘇村)

外構工事  
(2021年10月)



2022年12月運転開始(予定)<sup>\*2</sup>

**人吉ソーラー**  
(20.8 MW、熊本県人吉市)

造成工事  
(2021年10月)



2023年6月運転開始(予定)<sup>\*2</sup>

**キアンガン水力**  
(17.4 MW、フィリピンイフガオ州)

土木工事  
(2021年9月)



運転開始に向け建設中<sup>\*2\*3</sup>

<sup>\*1</sup> EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

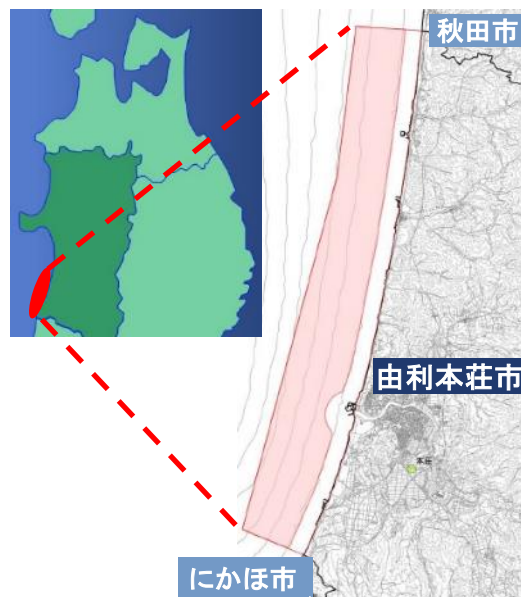
<sup>\*2</sup> 現状の計画値であり、変動する可能性がある

<sup>\*3</sup> 運転開始時期は非公表

# 開発中事業：秋田県由利本荘市沖洋上風力事業(約 [700] MW<sup>\*1</sup>)

2021年11月4日時点

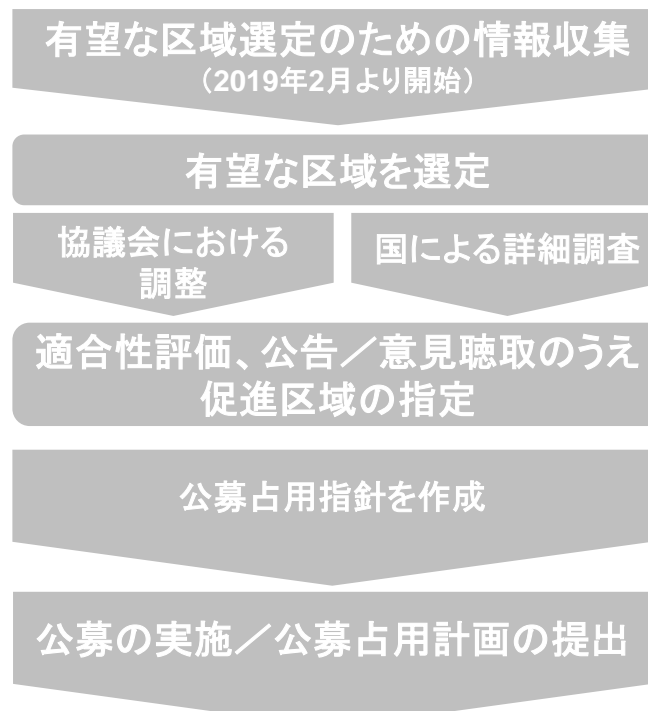
- レノバが開発をリードする秋田県由利本荘市沖における大規模洋上風力事業
- 現在公募プロセス中であり、2021年5月中に、公募占用計画を提出



設備容量	約 [700] MW <sup>*1</sup>
出資者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ レノバ(リード事業)</li> <li>■ コスモエコパワー</li> <li>■ JR東日本エネルギー開発</li> <li>■ 東北電力</li> </ul>

促進区域の  
指定  
プロセス

公募  
プロセス



**2段階の審査及び評価を経て  
事業者選定** } 5ヶ月~<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> 公募の実施を踏まえ、由利本荘洋上風力事業のスケジュールは未定であり、規模は暫定値

<sup>\*2</sup> 海洋再生可能エネルギー発電設備整備促進区域に係る公募占用指針について

( [https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku\\_gas/saisei\\_kano/yojo\\_furyoku/pdf/006\\_01\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/saisei_kano/yojo_furyoku/pdf/006_01_00.pdf) )より

---

#### IV.【添付資料】その他会社情報

# 電源の保有及び開発状況(1/4)

## 現在公表可能な事業リスト\*1(2021年11月現在)

- 運転中及び建設中の太陽光発電所の設備容量は合計370 MW超
- 2021年10月、軽米尊坊ソーラー(40.8 MW)が運転開始し、連結。  
人吉ソーラー(20.8 MW)は建設が順調に進捗

電源	事業名 略称	所在地	設備容量 (MW)	買取価格 (/kWh)*2	現況	出資比率	運転開始年 (目標)*3	FIT終了年
太陽光	水郷潮来	茨城県	15.3	40円	運転中	68.0%	2014年	2034年
	富津	千葉県	40.4	40円	運転中	51.0%	2014年	2034年
	菊川石山	静岡県	9.4	40円	運転中	63.0%	2015年	2035年
	菊川堀之内谷	静岡県	7.5	40円	運転中	61.0%	2015年	2035年
	九重	大分県	25.4	40円	運転中	100%	2015年	2035年
	那須塩原	栃木県	26.2	40円	運転中	100%	2015年	2035年
	大津	熊本県	19.0	36円	運転中	100%	2016年	2036年
	四日市	三重県	21.6	36円	運転中	100%	2019年	2039年
	那須烏山	栃木県	19.2	36円	運転中	100%	2019年	2039年
	軽米西	岩手県	48.0	36円	運転中	100%	2019年	2039年
	軽米東	岩手県	80.8	36円	運転中	100%	2019年	2039年
	軽米尊坊	岩手県	40.8	36円	運転中	55.0%	2021年10月	2041年
	人吉	熊本県	20.8	36円	建設中	38.0%*4	(2023年6月)	(2042年頃)*5

\*1 開発中の事業は、開発状況や進捗及び環境影響評価を踏まえた意見等に鑑み、変更、遅延又は中止となる可能性がある。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

\*2 買取価格は、売電先との実際の契約価格ではなく、各発電設備に対してFIT法に基づき適用されている固定買取価格(消費税抜表示)

\*3 建設中の事業における運転開始年は変更する可能性がある

\*4 発電所の完成日以降に、共同スポンサーが保有する匿名組合出資持分(62.0%)の全てを買い増す権利を有す

\*5 九州電力による送電線の工事期間が長期に亘り、運転開始は2023年の半ばを想定。2016年8月1日以降に接続契約を締結しており、認定から3年間の運転開始期限が設けられて27  
いるため、固定価格買取制度の下での売電期間は18年8ヶ月となる見通し

# 電源の保有及び開発状況(2/4)

## 現在公表可能な事業リスト\*1(2021年11月現在)

- 2021年8月、唐津バイオマス(49.9 MW)は融資関連契約を締結し、着工
- 運転中及び建設中のバイオマス事業の設備容量は合計約450 MW

電源	事業名 略称	所在地	設備容量 (MW)	買取価格 (/kWh)*2	現況	出資比率	運転開始年 (目標)*3	FIT 終了年
バイオマス	秋田(URE)	秋田県	20.5	32円/24円	運転中	35.3%*4	2016年	2036年
	苅田	福岡県	75.0	24円/32円	運転中	53.1%	2021年6月	2041年
	徳島津田	徳島県	74.8	24円/32円	建設中	70.4%*5	(2023年3月)	(2043年頃)
	御前崎港	静岡県	75.0	24円/32円	建設中	57.0%*6*7	(2023年7月)	(2043年頃)
	石巻ひばり野	宮城県	75.0	24円/32円	建設中	49.9%*8*9	(2023年5月)	(2043年頃)
	仙台蒲生	宮城県	75.0	24円/32円	建設中	29.0%*10	(2023年11月)	(2043年頃)
	唐津	佐賀県	49.9	24円	建設中	35.0%*11	(2024年12月)	(2044年頃)

\*1 開発中の事業は、開発状況や進捗及び環境影響評価を踏まえた意見等に鑑み、変更、遅延又は中止となる可能性がある。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

\*2 買取価格は、売電先との実際の契約価格ではなく、各発電設備に対してFIT法に基づき適用されている固定買取価格(消費税抜表示)

\*3 開発中及び建設中の事業における運転開始年は変更する可能性がある

\*4 弊社はURE(ユナイテッドリニューアブルエナジー株式会社)に対して、弊社子会社である千秋ホールディングス㈱(以下、千秋HD)を通じて出資しており、弊社によるUREの実質持分(千秋HDが保有するUREの株式に対して、弊社が保有する千秋HDの持株比率を乗じ、弊社が直接保有するとみなして算出したURE持株比率)は35.3%

\*5 ここでは配当比率を記載。出資比率は60.8%

\*6 ここでは配当比率を記載。出資比率は38.0%

\*7 発電所の完成日以降に、共同スポンサーの一部が保有する特別目的会社出資持分(出資比率: 18.0%、配当比率: 18.0%)を買い増す権利を有す。当該権利を行使した場合、弊社に帰属する事業からの配当比率は75.0%(但し、弊社の出資比率は 56.0%)

\*8 ここでは配当比率を記載。出資比率は38.0%

\*9 発電所の完成日以降に、共同スポンサーの一部が保有する特別目的会社出資持分(出資比率: 13.0%、配当比率: 13.0%)を買い増す権利を有す。当該権利を行使した場合、弊社に帰属する事業からの配当比率は62.93%(但し、弊社の出資比率は 51.0%)

\*10 発電所の完成日以降に、共同スポンサーの一部が保有する特別目的会社出資持分(出資比率: 31.0%)を買い増す権利を有す。当該権利を行使した場合、弊社の出資比率は 60.0%

\*11 発電所の完成日以降に、共同スポンサーの一部が保有する特別目的会社出資持分(出資比率: 16.0%)を買い増す権利を有す。当該権利を行使した場合、弊社の出資比率は 51.0%



# 電源の保有及び開発状況 (3/4)

## 現在公表可能な事業リスト\*1 (2021年11月現在)

■ 2021年10月、クアンチ風力(144.0 MW)が運転開始

電源	事業名 略称	所在地	設備容量 (MW)	買取価格 (/kWh)*3	現況	出資 比率	環境影響 評価の 進捗	運転 開始年 (目標)*4	FIT 終了年
洋上風力	由利本荘*5	秋田県	約[700]	未定	アセス中 (事業者選定 プロセス)	-	準備書 手続完了	未定	-
	いすみ*5	千葉県	約[350-450]	未定	先行投資 (公募対象事業)	-	-	未定	-
陸上風力	阿武隈*6	福島県	約150	22円	推進中	10% 未満	完了	未定	-
	荅北	熊本県	約50	21円	アセス中	-	評価書 作成中	(2024年頃)	(2044年頃)
	クアンチ*6	ベトナム	144.0	8.5セント	運転中	40.0%	-	2021年10月	2041年

\*1 開発中の事業は、開発状況や進捗及び環境影響評価を踏まえた意見等に鑑み、変更、遅延又は中止となる可能性がある。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

\*2 海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律(2018年12月7日公布)における公募

\*3 買取価格は、売電先との実際の契約価格ではなく、各発電設備に対してFIT法に基づき適用されている固定買取価格(消費税抜表示)

\*4 開発中の事業における運転開始年は変更する可能性がある

\*5 規模・運転開始年は、見通しが立った段階で改めてお示しします

\*6 他社が開発を主導するマイノリティ投資

## 電源の保有及び開発状況(4/4)

### 現在公表可能な事業リスト\*1(2021年11月現在)

- 2021年6月、南阿蘇湯の谷地熱(2.0 MW)が着工
- 2021年8月、キアングン水力(17.4 MW)が着工

電源	事業名 略称	所在地	設備容量 (MW)	買取価格 (/kWh)*2	現況	出資 比率	環境影響 評価の 進捗	運転開始年 (目標)*3	FIT 終了年
地熱	南阿蘇湯の谷*4	熊本県	2.0	40円	建設中	30.0%	-	(2022年12月)	-
	函館恵山	北海道	未定	未定	先行投資	-	-	未定	-
水力	キアングン	フィリピン	17.4*5	5.87 PHP*6*7	建設中	40.0%	-	非公表	-

\*1 開発中の事業は、開発状況や進捗及び環境影響評価を踏まえた意見等に鑑み、変更、遅延又は中止となる可能性がある。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

\*2 買取価格は、売電先との実際の契約価格ではなく、各発電設備に対してFIT法に基づき適用されている固定買取価格(消費税抜表示)

\*3 開発中の事業における運転開始年は変更する可能性がある

\*4 他社が開発を主導するマイノリティ投資

\*5 許認可ベースでの設備容量

\*6 小水力発電に関する FIT 対象枠の残存期間中に運転開始した場合の想定 FIT 単価

\*7 フィリピンペソ=2円で換算した参考値

# (ご参考) 国内におけるFIT買取価格一覧表\*1

## 2021年9月末時点

- 建設中及び運転中事業はいずれもFIT認定取得済み
- 公表済み開発中事業についても概ねFIT認定取得済み
  - 南阿蘇湯の谷地熱事業は40円にてFIT認定取得済み
  - 由利本荘洋上風力事業は、2018年12月に公布された再エネ海域利用法\*2に則り、事業者を選定するプロセスにおいてFIT価格が決定される

2021年度現在のFIT買取価格

**弊社の事業に適用されるFIT買取価格**

再エネ発電設備の区分等		参入時期 <sup>3</sup> 別の買取価格 <sup>4</sup> (1kWh当たり) (税別)											買取期間
電源	種類・規模	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
太陽光	2,000kW以上	40円	36円	32円	29円(～6月末) 27円(7月～)	24円	入札制					-	20年間
バイオマス	間伐材等由来 <sup>5</sup> 2,000kW以上	32円										-	20年間
	一般木材等 <sup>5</sup> 10,000kW以上 <sup>6</sup>	24円				24円(～9月末) 21円(10月～)	入札制					-	20年間
風力	陸上 20kW以上	22円				22円(～9月末) 21円(10月～)	20円	19円	18円	入札制			20年間
	一般海域／着床式	-	36円 <small>(一般海域の利用ルール整備に合わせて、ルールの適用される事業は入札制に移行)</small>					入札制					20年間
	一般海域／浮体式	-	36円										20年間
地熱	15,000kW以上	26円										15年間	
	15,000kW未満	40円										15年間	

\*1 経済産業省・資源エネルギー庁ウェブサイト(2021年4月28日時点)等を参考に弊社作成

\*2 海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律(2018年12月7日公布)

\*3 表示年度は各年4月から翌年3月までの期間を意味する

\*4 買取価格は各年度の期間内にFIT法に基づく要件を満たした再生可能エネルギー発電所の買取期間に亘り適用される、固定の電力買取価格(消費税抜表示)を示す

\*5 バイオマスの買取価格設定区分は、間伐材等由来が「国内発生のみ利用間伐・主伐材」、一般木質等が「製材端材、輸入材、パーム椰子殻、もみ殻、稲わら等」

\*6 バイオマス(一般木材等)の発電規模の当該区分は、2017年度までは20,000kW以上、2018年度以降は10,000kW以上

# 会社概要

2021年9月30日時点

## 会社情報

社名	株式会社レノバ
本店所在地	東京都中央区京橋二丁目2番1号
代表者	取締役会長 千本 倅生 代表取締役社長CEO 木南 陽介
設立	2000年5月
資本金	2,301百万円
証券取引所	東京証券取引所市場第1部
証券コード	9519
事業内容	再生可能エネルギー事業
従業員数(連結)	278名

## コーポレート・ガバナンス

取締役会	取締役9名のうち社外取締役5名
監査役会	監査役4名のうち社外監査役3名

## 株式の状況

発行可能株式総数	280,800,000株
発行済株式総数	78,549,200株
株主数	15,379名

## 主な沿革

2000年5月	株式会社リサイクルワン(現レノバ)を設立
2012年10月	再生可能エネルギー事業に参入
2014年2月	株式会社水郷潮来ソーラーにて発電を開始
2014年7月	株式会社富津ソーラーにて発電を開始
2015年2月	株式会社菊川石山ソーラー、株式会社菊川堀之内谷ソーラーにて発電を開始
2015年5月	九重ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2015年9月	那須塩原ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2016年4月	大津ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2017年2月	東京証券取引所マザーズ市場に株式上場
2017年7月	UREを連結子会社化
2018年2月	東京証券取引所市場第1部へ市場変更
2019年3月	四日市ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2019年5月	那須烏山ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2019年7月	軽米西ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2019年12月	軽米東ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2021年6月	苅田バイオマスエナジー(株)にて発電を開始
2021年10月	軽米尊坊ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2021年10月	クアンチ風力事業にて発電を開始